

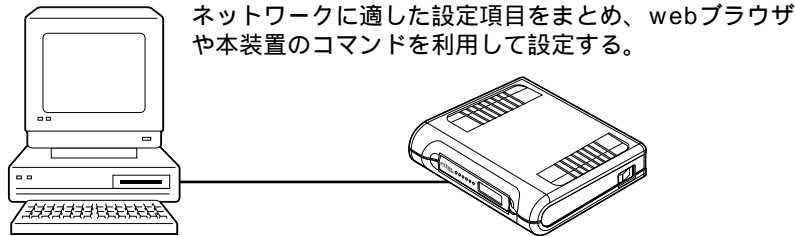
設定情報

本装置をインターネットサービスプロバイダ等のコンピュータネットワーク接続サービス業者経由でインターネットに接続したり、本装置またはその他のルータ装置と接続してイントラネットを構築するためには、最初に設定情報と呼ばれる各種パラメータを本装置に設定します。

設定情報の設定には次の2つの方法があります。

- Webブラウザを使用した設定
- コマンドを使用した設定

いずれの場合も、本装置の使用目的に沿った設定項目を整理してから実際の設定作業を行ってください。Netscape Navigator、Internet ExplorerなどのWebブラウザが動作すれば、設定に使用する端末のOSは問いません。



設定情報を設定するための接続

設定情報を本装置に設定するための端末と本装置の接続には、2つの接続方法があります。

設定方法	接続方法
Webブラウザ	10BASE-Tポート経由の接続
コマンド	10BASE-Tポート経由の接続 (telnet)
	シリアルポート経由の接続

いろいろな利用ケース

この節では、お客様が運用する多くのシステム形態のうち、基本的な例にしたがって設定項目をまとめています。まとめた内容を具体的に設定する方法は、「具体的な設定方法(☛P148)」を参照してください。

次の12ケースについて説明しています。

- 設定A インターネットダイヤルアップ端末型接続
- 設定B ダイヤルアップ対向1対1接続 (WAN Unnumbered)
- 設定C ダイヤルアップ複数相手接続 (WAN Numbered)
- 設定D ダイヤルアップ複数相手同時2箇所接続 (WAN Numbered)
- 設定E インターネット・複数イントラネット同時接続
- 設定F PIAFS/TA接続 (アクセスサーバ)
- 設定G インターネット専用線接続 (OCNエコノミーなど) <NAT on>
- 設定H インターネット専用線接続 (OCNエコノミーなど) <NAT off>
- 設定I 専用線対向接続 (WAN Unnumbered)
- 設定J 専用線対向接続 (WAN Numbered)
- 設定K フレームリレー接続 (WAN Unnumbered、InverseARP使用、スタティックルート)
- 設定L モデム接続

お知らせ

本装置は、初期導入の場合でもWAN回線から設定を行えるように、接続相手を制限しない(全ての相手からの着信を許可する)設定になっています。

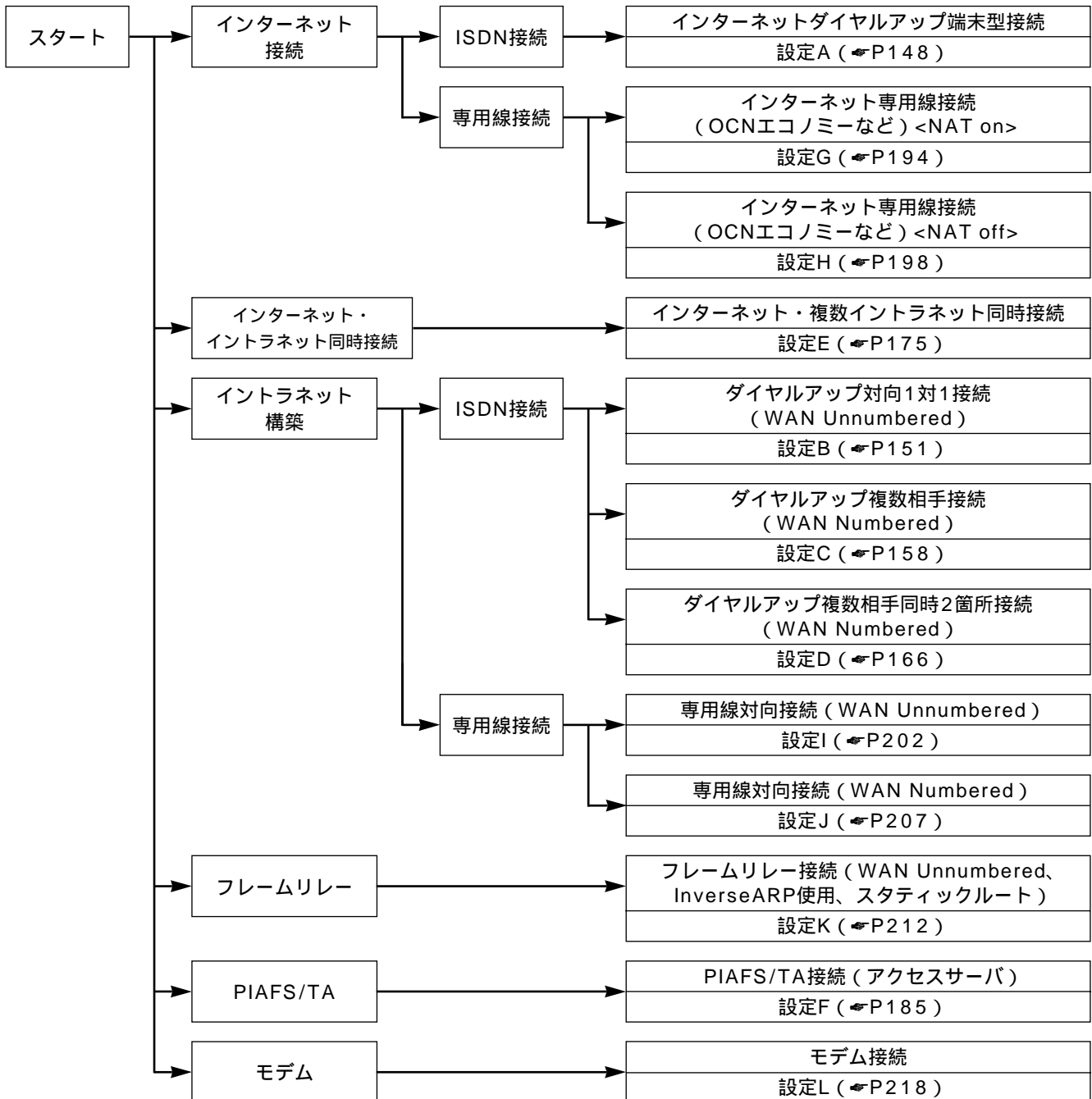
接続相手を制限するには、コマンドより「`isdn dialcheck=on`」(コンフィグレーションモード)と設定します。コマンドの使い方については、P40を参照してください。

Webブラウザを使用して設定する場合は、自動で接続相手を制限する設定になります。

各設定で使用している設定値は一例です。実際に設定する場合は、お客様のネットワーク環境に合わせた値を設定してください。

利用ケースの切り分け

お客様のご使用目的ごとに利用ケースを切り分けています。次のチャートに従ってご確認ください。具体的な設定項目は、P148～222を参照してください。



4
使
ル
タ
機
能
を

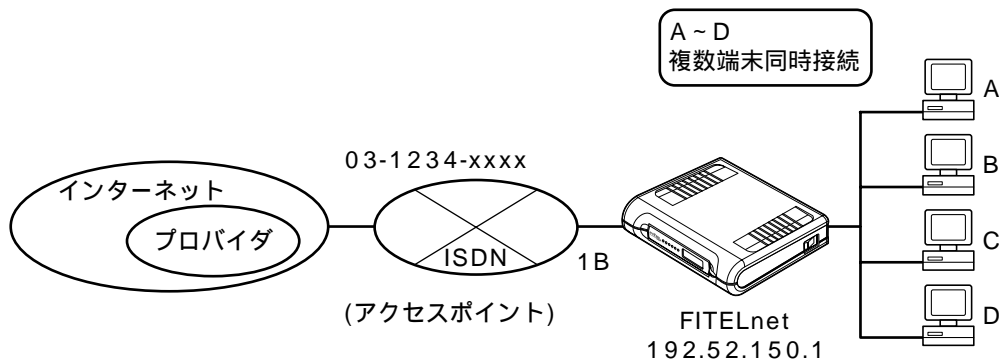
設定A

インターネットダイヤルアップ端末型接続

プロバイダとISDNダイヤルアップ端末型の契約をしているときやOCNダイヤルアクセスサービスを利用するときの設定について説明します。

ここでは、NAT⁺機能を使い、ダイヤルアップ端末型で複数台の端末を同時にインターネット接続する方法を例にしています。

Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例
簡単設定	ISDNダイヤルアップ接続の登録変更	アクセスポイント	03-1234-xxxx
		認証(接続)ID	marry
		認証(接続)パスワード	xyz-123
		プライマリDNSアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx
		セカンダリDNSアドレス	yyy.yyy.yyy.yyy

<Webブラウザ操作>

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [ISDNダイヤルアップ接続] をクリックします。
- 3 ISDN回線の設定をします。

プロバイダにISDN接続するとき使用するアクセスポイント、認証（接続）ID、認証（接続）パスワード、DNSのアドレスを下記のように入力します。

ISDNダイヤルアップ接続の登録変更

アクセスポイント:	<input type="text" value="031234xxxx"/>
認証(接続)ID:	<input type="text" value="jmarry"/> (最大127文字まで)
認証(接続)パスワード:	<input type="text" value="jyz-123"/> (最大32文字まで)
プライマリDNSアドレス:	<input type="text" value="xxx.xxx.xxx.xxx"/>
セカンダリDNSアドレス:	<input type="text" value="yyy.yyy.yyy.yyy"/>

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

トラフィックを分散（MP）するときは、「ISDN回線の接続について」を参照してください。（☞P223）

- 4 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

[リセット] 画面が表示されます。

- 5 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。

ユーザIDとパスワードを入力してください。（☞P36）

ISDNインターネットダイヤルアップ端末型接続では、DHCP機能がON、NAT+機能がON、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(☞P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

- 2 認証アカウント、認証パスワードの設定
(hostnameコマンド)

「認証アカウント (marry)」、 「認証パスワード (xyz-123)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add 1] は、設定項目を1エンタリー目へ登録することを意味します。この入力により「PPP認証 (使用する)」も登録されます。

```
conf#hostname add 1 default=marry password=xyz - 123 nameserver
= xxx.xxx.xxx.xxx,yyy.yyy.yyy.yyy
```

- 3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定(targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (dialup-easysetting)」、 「接続相手のISDN番号 (031234xxxx)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

[host=default] は、先に登録した「認証アカウント (marry)」を「接続相手のターゲット名称 (dialup-easysetting)」と結び付けます。

```
conf#target add name=dialup-easysetting dial=031234xxxx host=default
```

トラフィック分散する場合は、「接続相手のターゲット名称 (dialup-easysetting)」に [ls] を付加した内容のエンタリーの入力も必要です。

```
conf#target add name=dialup-easysettingls dial=031234xxxx host=default
```

- 4 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用する」ために「nat natp」を入力します。

```
conf#nat natp if=isdn1
```

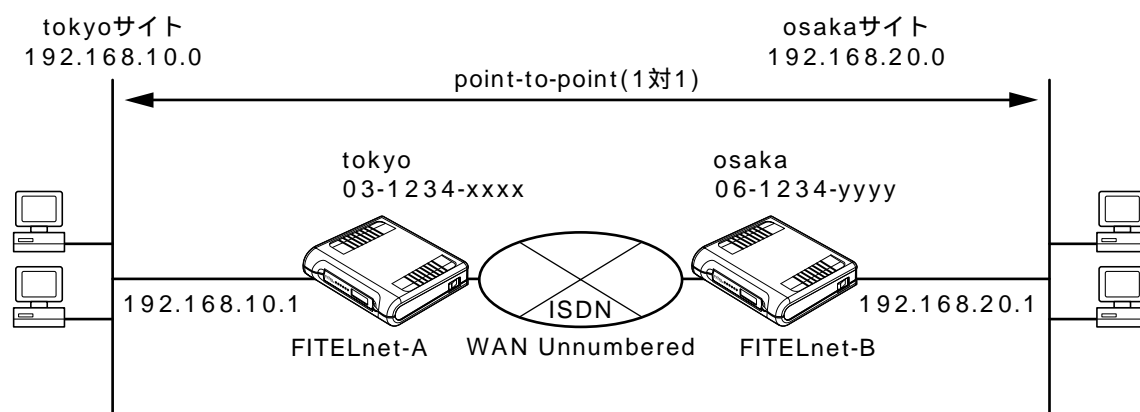
- 5 設定を保存します。(☞P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

設定B

ダイヤルアップ対向1対1接続

2台の本装置をISDN回線を使って1対1 (point-to-point) に接続するときの設定について説明します。2台の本装置の設定が必要になります。ここではFITELnet-Aの設定を例にします。相手認証には、ISDN発信者番号通知を使用しています。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時1箇所接続	
		接続方法	自動接続	
		自局電話番号	03-1234-xxxx	
		自局サブアドレス	なし	
		着信時の発信者番号チェック	する	
		着信時のPPP認証	しない	
	ISDN回線接続先の登録	相手の電話番号	06-1234-yyyy	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	osaka	
		登録電話番号を桁飛ばして着番号チェックする	0	
IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0	
		マスク長	24 (255.255.255.0)	
	中継先の指定	IPアドレス	192.168.20.1	
		メトリック	2	
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.10.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		WAN#1インタフェース	インタフェースタイプ	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	192.168.20.1
			相手インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0

4
使
ル
う
ル
ー
タ
機
能
を

< Webブラウザ操作 >

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。

3 ISDN回線の設定をします。

[現在の形態：同時1箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。トラフィック分散する場合は、[自動MP接続] をクリックします。接続方法・自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時1箇所接続

他の形態: 自動MP接続・強制MP接続・同時2箇所接続

接続方法: 手動接続 自動接続

自局電話番号: 031234xxxx

自局サブアドレス:

契約番号での着信: する しない

発呼接続時の無通信時間: 00 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

着呼接続時の無通信時間: 00 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

データ受信は無通信とするか: する しない

着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない

着信時、相手をPPP認証: する しない

発呼時、相手をPPP認証: する しない

装置連続接続リミッターは、 利用しない 12 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネルバケット接続と共通項目のため、Dチャネルバケット接続にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] ボタンをクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

4 ルータの便利な設定から [ダイアルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

5 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. ISDN1xxxx	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]
ダイヤルアップ接続時の接続ゾーンは [] 番目の内容を使用する
相手認証用のID: osaka
パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手側に設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別するための内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を [] 前飛ばして着番号チェックする
接続接続状態の監視: しない する(連続500 分まで接続可能)
PAPFS 接続: しない する(32k) する(64k:ギガビット方式) する(64k:ハネエポート方式)

注: 1. ISDN1はISDN1-2形式またはISDN1-2形式の形式で入力してください。
2. ISDN2はISDN2-1形式またはISDN2-2形式の形式で入力してください。
3. PAPFSとして接続する時の接続インタフェースにIDを入力した場合は、PAPFS接続の監視はしなくなります。

コールバック
 しない
 する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

6 ルータの便利な設定から [NAT機能] をクリックします。

7 NAT機能をOFFにします。

NAT機能

NAT機能: OFF NAT ON NAT+ON

以降はNAT又はNAT+機能がONの時有効となります。

NAT又はNAT+機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2 ASYNC DP

[NATスタティック登録](#)

[NAT+スタティック登録](#)

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

8 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

次ページへ続く

4
使う
ルータ
機能
を

具体的な設定方法

9 ルート情報を設定します。

宛先アドレス・宛先サブネットマスクなどを下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録

優先度	通信先指定	中継先指定	ホップ	プライオリティ
1	IPアドレスとマスク 192 168 20 0 / 24	<input type="radio"/> IPアドレス指定 192 168 20 1 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 ISDN1 <input type="radio"/> インタフェース指定 ISDN1	2	60

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

10 ルータの [詳細設定] をクリックします。

11 [インタフェースの設定] をクリックします。

12 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス: 192 | 168 | 10 | 1
 インタフェースサブネットマスク: 255 | 255 | 255 | 0

13 WAN#1を設定します。

[ポイントツーポイント] をクリックし、相手インタフェースアドレス、相手インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。

WAN#1 インタフェース:

ISDN1 回線(含むMF接続)、高速デジタル専用線、フレームリレーの内いずれかの回線をご使用になる場合に対象となります。
 フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行って下さい。

ダウン

ブロードキャスト
 インタフェースアドレス: [] [] [] []
 インタフェースサブネットマスク: [] [] [] []

ポイントツーポイント
 インタフェースアドレス: [] [] [] []
 相手インタフェースアドレス: 192 | 168 | 20 | 1
 相手インタフェースサブネットマスク: 255 | 255 | 255 | 0

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

14 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

15 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bにも同様の設定を行ってください。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。
(P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 WAN回線の選択 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan isdn」を入力します。

この入力により「トラフィック分散 (しない)」も設定されます。
トラフィック分散する場合は、「wan lse」と入力します。

```
conf#wan isdn
```

3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号、着信認証方法、パスワードの設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (osaka)」、 「接続相手のISDN番号 (061234yyyy)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy
```

4
ルータ機能
を使う

次ページへ続く

4 自局のISDN番号、サブアドレスの設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、「自局のサブアドレス (なし)」を「isdn」コマンドで入力します。

[-1] は対象のISDN B1回線の指定を意味します。

[target=osaka] は先に登録した「接続相手のターゲット名称 (osaka)」とB1回線を結び付けます。

```
conf#isdn multimode=on dialcheck=on - 1 dial=031234xxxx target=osaka
```

トラフィック分散する場合は、B2回線の設定も行います。

```
conf#isdn - 2 dial=031234xxxx
```

5 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 ISDN回線の接続先IPアドレス、ネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

ISDN回線インタフェースの「接続先IPアドレス (192.168.20.1)」、「接続先ネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[isdn1] はISDN B1回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn1 remote=192.168.20.1, 255.255.255.0
```

7 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します。

```
conf# ipripstatic delete all
```

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス : 192.168.20.0、宛先サブネットマスク : 255.255.255.0、NextHop : 192.168.20.1))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf# ipripstatic add dst=192.168.20.0, 255.255.255.0  
nextHop=192.168.20.1
```

8 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

9 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

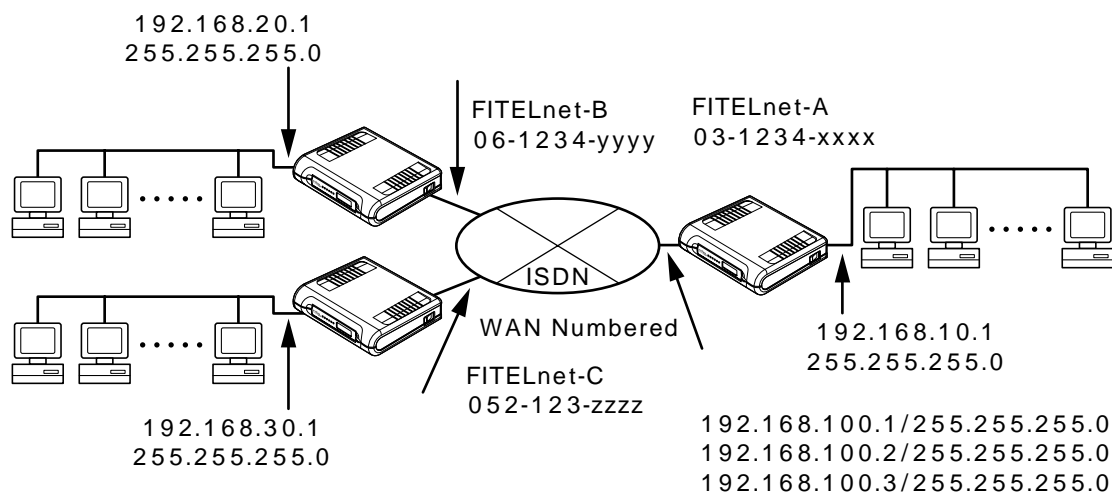
FITELnet-Bも同様の設定を行ってください。

4
ルータ機能
を使う

設定C

ダイヤルアップ複数相手接続

接続相手を複数登録し、データの宛先により自動的に接続相手を選んで接続する設定について説明します。接続相手は20箇所まで登録することができます。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目	設定例
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時1箇所接続
		接続方法	自動接続
		自局電話番号	03-1234-xxxx
		自局サブアドレス	なし
		着信時の発信者番号チェック	する
		着信時のPPP認証	しない
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	06-1234-yyyy
		相手のサブアドレス	なし
		相手認証用のID	osaka
		next gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1
		登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0
	ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号	052-123-zzzz
		相手のサブアドレス	なし
		相手認証用のID	nagoya
		next gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1
登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする		0	

次ページへ続く

分類	画面名	設定項目		設定例
便利な設定	IP RIPスタティック (1件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.2
			接続相手の指定	osaka
			メトリック	2
	IP RIPスタティック (2件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.30.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.3
			接続相手の指定	nagoya
			メトリック	2
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタ フェース	インタフェースアドレス	192.168.10.1
			インタフェースサブネット マスク	255.255.255.0
		WAN#1イン タフェース	インタフェースタイプ	ブロードキャスト
			インタフェースアドレス	192.168.100.1
			インタフェースサブネット マスク	255.255.255.0

具体的な設定方法

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 ISDN回線を設定します。
 [現在の形態：同時1箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。
 トラフィック分散する場合は、[自動MP接続] をクリックします。
 接続方法、自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時1箇所接続

他の形態: 自動MP接続・強制MF接続・同時2箇所接続

接続方法: 手動接続 自動接続

自局電話番号:

自局サブアドレス:

契約番号での着信: する しない

発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

データ受信は無通信とするか: する しない

着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない

着信時、相手をPPP認証: する しない

発呼時、相手をPPP認証: する しない

装置連続接続リミッターは、 利用しない 2時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャンネル/パケット接続と共通項目のため、Dチャンネル/パケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

5 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順4～5を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 051234yyyy	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [] 番目の内容を使用する

相手認証用のID: josaka

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手も区別できる内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続000分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:キャンティ方式) する(64k:ベストエフォート方式)

※注意
NTT Docomo FHSの64kデータ通信はキャンティ方式PIAFS 2.0準拠です。
DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はベストエフォート方式PIAFS 2.1準拠です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(DCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりとなります。

コールバック:
 しない する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 05123zzzz	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [] 番目の内容を使用する

相手認証用のID: jnaooya

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手も区別できる内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続000分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:キャンティ方式) する(64k:ベストエフォート方式)

※注意
NTT Docomo FHSの64kデータ通信はキャンティ方式PIAFS 2.0準拠です。
DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はベストエフォート方式PIAFS 2.1準拠です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(DCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりとなります。

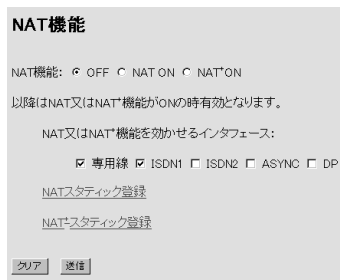
コールバック:
 しない する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

6 ルータの便利な設定から [NAT機能] をクリックします。

次ページへ続く

7 NAT機能をOFFにします。



NAT機能

NAT機能: OFF NAT ON NAT+ ON

以降はNAT又はNAT+機能がONの時有効となります。

NAT又はNAT+機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2 ASYNC DP

[NATスタティック登録](#)

[NAT+スタティック登録](#)

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

8 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

9 接続相手とルート情報を設定します。

宛先アドレス、宛先サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。この例では2件登録しています。



種別	通信先指定 IPアドレスとマスク	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> 192.168.20.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.100.2 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 ISDN1 <input type="radio"/> インタフェース指定 ISDN1	2	50
2	<input type="checkbox"/> 192.168.80.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.100.3 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 ISDN1 <input type="radio"/> インタフェース指定 ISDN1	2	50

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

10 ルータの [詳細設定] をクリックします。

11 [インタフェースの設定] をクリックします。

12 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

13 WAN#1を設定します。

[ブロードキャスト] をクリックし、IPアドレス、サブネットマスクパターンを下記のように入力します。

WAN#1インタフェース:

ISDN1 回線(を含む接続)、高速デジタル専用線、フレッツリレーの内、いずれかの回線をご使用になる場合に対象となります。
フレッツリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス連の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

⌵ ダウン

ⓐ ブロードキャスト

インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

ⓐ ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:
相手インタフェースアドレス:
相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

14 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

15 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-B、FITELnet-Cにも同様の設定を行ってください。

4
使
ル
う
ル
ー
タ
機
能
を

< コマンド操作 >

1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 WAN回線の選択 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan isdn」を入力します。

```
conf#wan isdn
```

3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (osaka、nagoya)」、 「接続相手のISDN番号 (06-1234-yyyy、052-123-zzzz)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy  
conf#target add name=nagoya dial=052123zzzz
```

4 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、 「自局のサブアドレス (なし)」、 「自局の複数相手接続を使用する」を「isdn」コマンドで入力します。

[-1] は対象のISDN B1回線の指定を意味します。

[target=osaka] は先に登録した「接続相手のターゲット名称 (osaka)」とB1回線を結び付けます。

```
conf#isdn multimode=on - 1 dial=031234xxxx target=osaka
```

5 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 ISDN回線インタフェースの複数相手接続の設定 (interfaceコマンド)

ISDN回線インタフェースの「複数相手接続を使用する (IPアドレス: 192.168.100.1、ネットマスク: 255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。
[isdn1] はISDN B1回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.1,255.255.255.0
```

7 接続相手の設定 (iptargetコマンド)

「接続相手の設定 (192.168.100.2、192.168.100.3)」を「iptarget」コマンドで入力します。
入力はターゲット名称ごとに行います。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf# iptarget add addr=192.168.100.2 name=osaka  
conf# iptarget add addr=192.168.100.3 name=nagoya
```

8 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します。

```
conf# ipripstatic delete all
```

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス: 192.168.20.0、宛先サブネットマスク: 255.255.255.0、Nexthop :192.168.100.2))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf# ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0  
nexthop=192.168.100.2
```

同様にFITELnet-Cへのスタティックルートも登録します。

```
conf# ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0 nexthop  
=192.168.100.3
```

9 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{plus}機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

10 設定を保存します。(P41)

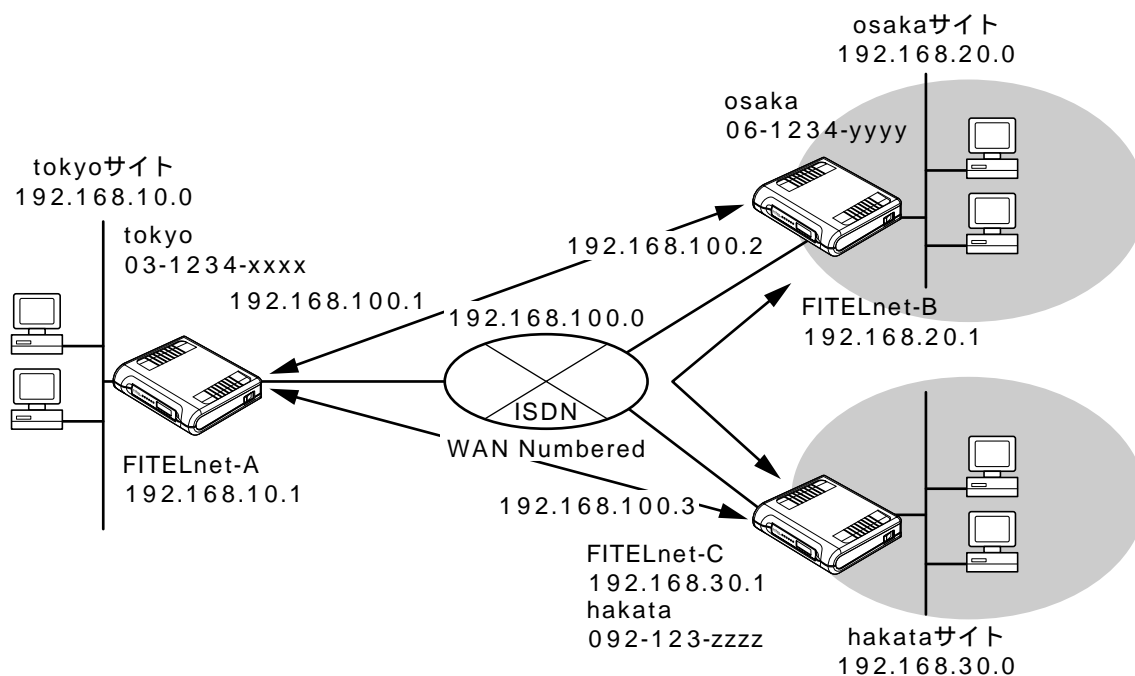
```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-B、FITELnet-Cも同様の設定を行ってください。

設定D

ダイヤルアップ複数相手同時2箇所接続

接続相手を複数登録し、同時に2箇所と接続する設定について説明します。接続相手は20箇所まで登録することができます。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時2箇所接続	
		B1	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
		B2	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
	B1、B2共通	着信時の発信者番号チェック	する	
		着信時のPPP認証	しない	
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	06-1234-yyyy	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	osaka	
		next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1	
		登録電話番号を桁飛ばして着番号チェックする	0	
	ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号	092-123-zzzz	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	hakata	
		next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1	
		登録電話番号を桁飛ばして着番号チェックする	0	
	IP RIPスタティック (1件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
マスク長			24 (255.255.255.0)	
中継先の指定		IPアドレス	192.168.100.2	
		接続相手の指定	osaka	
		メトリック	2	
		プリファレンス	50	
IP RIPスタティック (2件目の例)		通信先の指定	IPアドレス	192.168.30.0
	マスク長		24 (255.255.255.0)	
	中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.3	
		接続相手の指定	hakata	
		メトリック	2	
		プリファレンス	50	
	詳細設定	インタフェースの設定	インタフェースアドレス	192.168.10.1
インタフェースサブネットマスク			255.255.255.0	
WAN#1インタフェース			ブロードキャスト	
インタフェースアドレス			192.168.100.1	
インタフェースサブネットマスク			255.255.255.0	

具体的な設定方法

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 [現在の形態] に [同時2箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。表示されていない場合は、[他の形態] の中から [同時2箇所接続] をクリックします。
- 4 ISDN回線を設定します。

B1・B2回線別に、接続方法、自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続
他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

B1:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 データ受信は無通信とするか: する しない

B2:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
 着信時の発信者番号 (相手の電話番号) チェック: する しない
 着信時、相手をPPP認証: する しない
 発呼時、相手をPPP認証: する しない
 装置連続接続リミッター (は、 利用しない 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネル/バケット接続と共通項目のため、Dチャネル/バケット接続時にも影響を及ぼします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

5 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

6 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順5～6を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 061234yyyy	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [] 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

ご注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定してください。

新規

登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

接続接続状態の監視: しない する (連続600 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k:ギガランディ方式) する (64k:ヘブエフォート方式)

※メモ
NTT Docomo PH6の64kデータ通信はギガランディ方式(PIAFS 2.0準拠)です。
DOJ POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はヘブエフォート方式(PIAFS 2.1準拠)です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースはIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりになります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 092123zzzz	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [] 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

ご注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定してください。

新規

登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

接続接続状態の監視: しない する (連続600 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k:ギガランディ方式) する (64k:ヘブエフォート方式)

※メモ
NTT Docomo PH6の64kデータ通信はギガランディ方式(PIAFS 2.0準拠)です。
DOJ POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はヘブエフォート方式(PIAFS 2.1準拠)です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースはIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりになります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

7 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

具体的な設定方法

8 接続相手とルート情報を設定します。

宛先アドレス、宛先サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。この例では2件登録しています。

IP RIP スタティックの登録

種別	通信先指定 IPアドレスとマスク	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> 192.168.20.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.100.2 国庫がISDN等のダイヤルアップ回線時は、その接続先を指定して下さい: osaka <input type="radio"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい: [S-DNH]	<input type="checkbox"/>	50
2	<input type="checkbox"/> 192.168.30.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.100.3 国庫がISDN等のダイヤルアップ回線時は、その接続先を指定して下さい: hakata <input type="radio"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい: [S-DNH]	<input type="checkbox"/>	50

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

9 ルータの [詳細設定] をクリックします。

10 [インタフェースの設定] をクリックします。

11 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス: 192.168.10.1
 インタフェースサブネットマスク: 255.255.255.0

12 WAN#1を設定します。

[ブロードキャスト]をクリックし、インタフェースアドレス、インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。WAN#2は「ダウン」を選択します。

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(金沢MF機)、高速デジタル専用線、フレッツリレーの内、いずれかの回線をご使用になる場合に対象となります。フレッツリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時アドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

13 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

14 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-B、FITELnet-Cにもこの設定を行ってください。

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
conf#  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択 (WANコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan dual」を入力します。

```
conf#wan dual
```

- 3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (osaka、hakata)」、 「接続相手のISDN番号 (061234yyyy、092123zzzz)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy  
conf#target add name=hakata dial=092123zzzz
```

- 4 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、 「自局のサブアドレス (なし)」、 「自局の複数相手接続を使用する」を「isdn」コマンドで入力します。

[-1]・[-2] は対象のISDN B1・B2回線の指定を意味します。

```
conf#isdn dialcheck=on multimode=on  
conf#isdn -1 dial=031234xxxx  
conf#isdn -2 dial=031234xxxx
```

- 5 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 ISDN回線インタフェースの設定 (interfaceコマンド)

「複数相手接続を使用する (IPアドレス : 192.168.100.1、ネットマスク : 255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[isdn1] はISDN B1回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.1,255.255.255.0
```

7 接続相手の設定 (iptargetコマンド)

「接続相手の設定 (192.168.100.2、192.168.100.3)」を「iptarget」コマンドで入力します。

入力はターゲット名称ごとに行います。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=osaka
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
```

8 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス : 192.168.20.0、宛先サブネットマスク : 255.255.255.0、Nexthop : 192.168.100.2))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0
nexthop=192.168.100.2
```

同様にFITELnet-Cへのスタティックルートも登録します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0
nexthop=192.168.100.3
```

9 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^(plus)機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

次ページへ続く

10 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-B、FITELnet-Cも同様の設定を行ってください。

FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031234xxxx
conf#target add name=hakata dial=092123zzzz
conf#isdn dialcheck=on multimode=on
conf#isdn -1 dial=061234yyyy
conf#isdn -2 dial=061234yyyy
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.2,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=tokyo
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.3
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

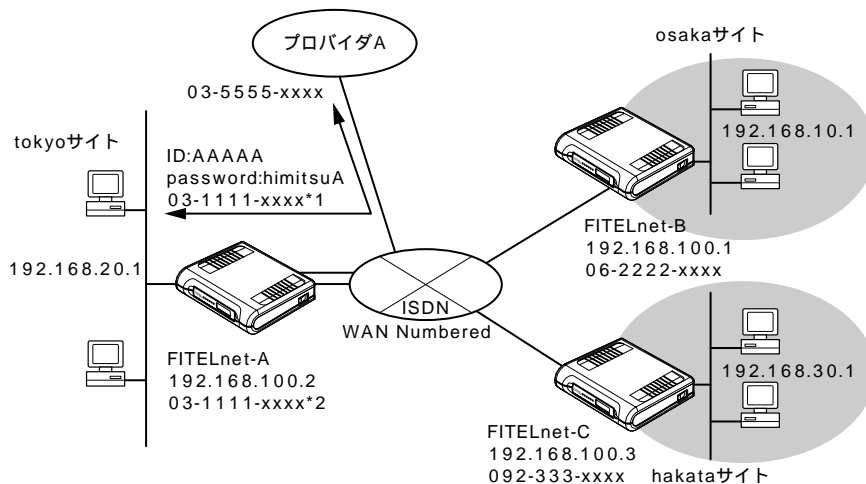
FITELnet-Cの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031234xxxx
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy
conf#isdn dialcheck=on multimode=on
conf#isdn -1 dial=092123zzzz
conf#isdn -2 dial=092123zzzz
conf#interface lan addr=192.168.30.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.3,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=tokyo
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=osaka
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定E

インターネット・複数イントラネット同時接続

2台の本装置をISDNの1チャンネルを使ってイントラネットに接続し、残りの1チャンネルをプロバイダにダイヤルアップ端末型として接続する設定について説明します。イントラネットでは複数の拠点を結びます。この設定例では、ISDN2Bを別々のインタフェースとしてサブアドレスで分けて使用しています。LAN間接続でもPPP認証を行っており、インターネット接続用のID/Passwordを使用しています。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
簡単設定	ISDNダイヤルアップ接続の登録 変更	アクセスポイント	03-5555-xxxx	
		認証(接続)ID	AAAAA	
		認証(接続)パスワード	himitsuA	
		プライマリDNSアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		セカンダリDNSアドレス	yyy.yyy.yyy.yyy	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時2箇所接続	
		B1	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1111-xxxx
			自局サブアドレス	1
		B2	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1111-xxxx
			自局サブアドレス	2
		B1、B2共通	着信時の発信者番号 チェック	する
	着信時のPPP認証		する	
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	06-2222-xxxx	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	osaka	
		登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0	
ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号	092-333-xxxx		
	相手のサブアドレス	なし		
	相手認証用のID	hakata		
	登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0		

4
使
ル
タ
機
能
を

具体的な設定方法

分類	画面名	設定項目		設定例
便利な設定	IP RIPスタティック (1件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.10.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.1
			接続相手の指定	osaka
			メトリック	2
	IP RIPスタティック (2件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.30.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.3
			接続相手の指定	hakata
			メトリック	2
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.20.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		WAN#1インタフェース	インタフェースタイプ	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	0.0.0.0
			相手インタフェースサブネットマスク	0.0.0.0
		WAN#2インタフェース	インタフェースタイプ	ブロードキャスト
			インタフェースアドレス	192.168.100.2
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [ISDNダイヤルアップ接続] をクリックします。
- 3 ISDNダイヤルアップ接続の設定をします。
プロバイダにISDN接続するとき使用するアクセスポイント、認証（接続）ID、認証（接続）パスワードを下記のように入力します。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

ISDNダイヤルアップ接続の登録変更

アクセスポイント:

認証(接続)ID: (最大127文字まで)

認証(接続)パスワード: (最大32文字まで)

プライマリDNSアドレス:

セカンダリDNSアドレス:

4 ルータの [便利な設定] をクリックします。

5 [ISDN回線の接続について] をクリックします。

6 [現在の形態] に [同時2箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。表示されていない場合は、[他の形態] の中から [同時2箇所接続] をクリックしてください。

7 ISDN回線を設定します。

B1・B2回線別に、接続方法・自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続
他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

B1:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号: [031111xxxx]
自局サブアドレス: []
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B2:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号: [031111xxxx]
自局サブアドレス: []
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない
着信時、相手をPPP認証: する しない
発呼時、相手をPPP認証: する しない
装置連続接続リミッターは、 利用しない [12] 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネルバケット接続と共通項目のため、Dチャネルバケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

次ページへ続く

4
使う
ルータ機能
を

具体的な設定方法

8 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

9 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するとき、手順8～9を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス

電話番号	サブアドレス
1. 062222xxxx	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース ISDN 電話機

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番号の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を 桁飛ばして番番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続600分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:ギガランチャ方式) する(64k:ヘネエフォート方式)

※PIAFS
NTT DDCoMo P16の64kデータ通信はギガランチャ方式PIAFS 2.0 連携です。
DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT 464)はヘネエフォート方式PIAFS 2.1 連携です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(TCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりとなります。

コールバック:

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス

電話番号	サブアドレス
1. 092333xxxx	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース ISDN 電話機

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番号の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を 桁飛ばして番番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続600分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:ギガランチャ方式) する(64k:ヘネエフォート方式)

※PIAFS
NTT DDCoMo P16の64kデータ通信はギガランチャ方式PIAFS 2.0 連携です。
DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT 464)はヘネエフォート方式PIAFS 2.1 連携です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(TCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりとなります。

コールバック:

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

10 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

11 接続相手とルート情報を設定します。

宛先アドレス・宛先サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。この例では2件登録しています（1件目はインターネットダイヤルアップ接続用にデフォルトルートがあらかじめ設定されています）。

IP RIP スタティックの登録

順	通信先指定 IPアドレスとマスクの値	中継先指定	ホリク	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> 0.0.0.0 /	<input type="radio"/> 静的指定 国境がISDN側のダイヤルアップ接続時は、その通信先を指定して下さい。 <input type="checkbox"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい。 [ISDN #] <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [ISDN #]	16	60
2	<input type="checkbox"/> 192.168.10.0 / 24	<input type="radio"/> 静的指定 国境がISDN側のダイヤルアップ接続時は、その通信先を指定して下さい。 [192] [168] [10] [0] / <input type="checkbox"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい。 [ISDN #] <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [ISDN #]	2	60
3	<input type="checkbox"/> 192.168.80.0 / 24	<input type="radio"/> 静的指定 国境がISDN側のダイヤルアップ接続時は、その通信先を指定して下さい。 [192] [168] [80] [0] / <input type="checkbox"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい。 [ISDN #] <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [ISDN #]	2	60

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

12 ルータの [詳細設定] をクリックします。

13 [インタフェースの設定] をクリックします。

次ページへ続く

お知らせ

ISDNインターネットダイヤルアップ端末型接続では、DHCP機能がON、NAT+機能がON（ISDN # 1のみ）、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

4
使う
ルータ
機能を

具体的な設定方法

14 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:

15 WAN#1・WAN#2を設定します。

WAN#1を [ポイントツーポイント]、WAN#2を [ブロードキャスト] とし、下記のように入力します。

WAN#1インタフェース:

ISDN 回線(または専用線)、高速デジタル専用線、フレームリレーの内いずれかの回線をご使用になる場合に対応となります。
 フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルIDの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

⌵ ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

WAN#2インタフェース:

ISDNを2回線をご使用になる場合の2回線目のインタフェースとして設定します。

⌵ ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

16 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

17 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bにも同様の設定を行ってください。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 WAN回線の選択 (WANコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan dual isdn」を入力します。

```
conf#wan dual isdn
```

3 認証アカウント、認証パスワードの設定 (hostnameコマンド)

「認証アカウント (AAAAA)」、「認証パスワード (himitsuA)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add 1] は、設定項目を1エントリー目へ登録することを意味します。

この入力により「PPP認証 (使用する)」も登録されます。

```
conf#hostname add 1 default=AAAAA password=himitsuA nameserver
=xxx.xxx.xxx.xxx.yyy.yyy.yyy.yyy
```

4 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (providerA、osaka、hakata)」、「接続相手のISDN番号 (035555xxxx、062222xxxx、092333xxxx)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=providerA dial=035555xxxx host=default
conf#target add name=osaka dial=062222xxxx
conf#target add name=hakata dial=092333xxxx
```

次ページへ続く

4
使
ル
う
タ
機
能
を

5 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド・iptargetコマンド)

「自局のISDN番号(031111xxxx)」、「自局のサブアドレス(1)」、「自局の複数相手接続を使用する」を「 isdn 」コマンドで入力します。

[rcvcheck=on] は着信時にPPP認証を行うことを意味します。

[-1]・[-2] は対象のISDN B1・B2回線の指定を意味します。

[target=providerA] は先に登録した「接続相手のターゲット名称 (providerA)」とB1回線を結び付けます。

```
conf#isdn dialcheck=0 multimode=on rcvcheck=on
conf#isdn -1 dial=031111xxxx * 1 target=providerA
conf#isdn -2 dial=031111xxxx * 2
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=osaka
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
```

6 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.20.1)」、「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「 interface 」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0
```

7 ISDN回線のIPアドレス、接続先のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

「ISDN B1回線インタフェースのIPアドレス (0.0.0.0)」、「接続先のIPアドレス (0.0.0.0)」を「 interface 」コマンドで入力します。 [isdn1] はISDN B1回線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn1 addr=0.0.0.0 remote=0.0.0.0
```

8 ISDN回線インタフェースの設定 (interfaceコマンド)

「複数相手接続を使用する (IPアドレス : 192.168.100.2、ネットマスク : 255.255.255.0)」を「 interface 」コマンドで入力します。

[isdn2] はISDN B2回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn2 addr=192.168.100.2,255.255.255.0
```

9 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス : 192.168.10.0、宛先サブネットマスク : 255.255.255.0、NextHop=192.168.100.1))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
```

同様にFITELnet-Cへのスタティックルートも登録します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0, 255.255.255.0 nexthop=192.168.100.3
```

10 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT⁺ (plus) 機能)」を「使用する」ために「nat natp」を入力します。

```
conf#nat natp if =isdn1
```

11 DHCP機能の設定 (dhcpserverコマンド)

「DHCP機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

12 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-Bも同様の設定を行ってください。

FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031111xxxx *2
conf#target add name=hakata dial=092333xxxx
conf#isdn dialcheck=0 multimode=on
conf#isdn -1 dial=062222xxxx
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.1,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=tokyo
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.3
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

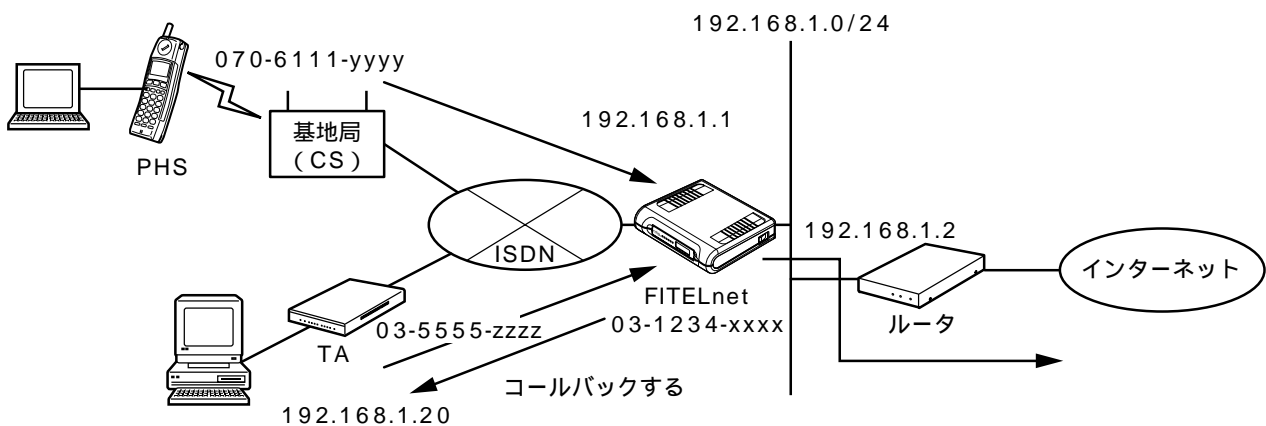
FITELnet-Cの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031111xxxx *2
conf#target add name=osaka dial=062222xxxx
conf#isdn dialcheck=0 multimode=on
conf#isdn -1 dial=092333xxxx
conf#interface lan addr=192.168.30.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.3,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=osaka
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=tokyo
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```


設定F

PIAFS/TA接続 (アクセスサーバ)

本装置をアクセスサーバとして使用し、遠隔地のTA端末と接続する例について説明します。この例では、1つのTAには本装置からコールバックするようにしています。PHSやTAを20件まで登録することができ、同時に2箇所と接続することができます。本装置のLAN側にある他のルータからインターネットへのアクセスも可能です。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時2箇所接続	
		B1	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
		B2	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
		B1、B2共通	着信時の発信者番号チェック	する
			着信時のPPP認証	する
		ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	070-6111-yyyy
相手のサブアドレス	なし			
相手認証用のID	PHS			
相手認証用のパスワード	phs			
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1			
登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0			
PIAFS接続	する(64K:ギャランティ方式)			
コールバック	しない			

4
使
ル
タ
機
能
を

次ページへ続く

具体的な設定方法

分類	画面名	設定項目		設定例
便利な設定	ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号		03-5555-zzzz
		相手のサブアドレス		なし
		相手認証用のID		TA
		相手認証用のパスワード		ta
		next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース		ISDN#1
		登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする		0
		PIAFS接続		しない
		コールバック		する (登録している所へする)
	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	0.0.0.0
			マスク長	0.0.0.0
中継先の指定		IPアドレス	192.168.1.2	
		メトリック	2	
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.1.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
			WAN#1インタフェース	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	192.168.1.10
			相手インタフェースサブネットマスク	255.255.255.255
			WAN#2インタフェース	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	192.168.1.20
			相手インタフェースサブネットマスク	255.255.255.255

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 [現在の形態] に [同時2箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。表示されていない場合は、[他の形態] の中から [同時2箇所接続] をクリックしてください。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。
ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

4 ISDN回線を設定します。

B1回線に、接続方法・自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続
他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

B1:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号:
自局サブアドレス:
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B2:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号:
自局サブアドレス:
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない
着信時、相手をPPP認証: する しない
発呼時、相手をPPP認証: する しない
装置連続接続リミッターは、 利用しない 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネルバケット接続と共通項目のため、Dチャネルバケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

5 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の設定] をクリックします。

次ページへ続く

6 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順5～6を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 0706111yyyy	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する (連続 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k: キャラクター方式) する (64k: ベストエフォート方式)

※メモ
NTT Docomo PHSの64kデータ通信はキャラクタ方式PIAFS 0.0 専用です。
DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DATA64)はベストエフォート方式PIAFS 0.1 専用です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースにDIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしないとなります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 0355552222	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する (連続 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k: キャラクター方式) する (64k: ベストエフォート方式)

※メモ
NTT Docomo PHSの64kデータ通信はキャラクタ方式PIAFS 0.0 専用です。
DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DATA64)はベストエフォート方式PIAFS 0.1 専用です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースにDIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしないとなります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

7 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

8 接続相手とルート情報を設定します。

IPアドレス、サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録			
通信先指定	中継先指定	ホップ	プライオリティ
IPアドレスとサブネットマスク	IPアドレス指定 [192] [168] [1] [0] / [24]	到達経路の登録は、その到達先を指定して下さい。	
[0] [0] [0] [0] / [0]	ダイナミックに登録先指定 [0] [0] [0] [0] / [0]	到達先を指定するインターフェースを指定して下さい。 [0] [0] [0] [0]	2
	インターフェース指定 [0] [0] [0] [0]		

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

9 ルータの [詳細設定] をクリックします。

10 [インタフェースの設定] をクリックします。

11 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定	
LANインタフェース: インタフェースアドレス:	[192] [168] [1] [1]
インタフェースサブネットマスク:	[255] [255] [255] [0]

次ページへ続く

12 WAN#1、WAN#2を設定します。

[ポイントツーポイント] をクリックし、相手インタフェースアドレス、相手インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(含EMF機能)、高速デジタル専用線、フレームリレーのいずれかの回線をご利用になる場合に対応します。
フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

⌵ ダウン

ブロードキャスト
インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント
インタフェースアドレス:
相手インタフェースアドレス:
相手インタフェースサブネットマスク:

WAN#2インタフェース:

ISDNを2回線をご利用になる場合の2回線目のインタフェースとして設定します。

⌵ ダウン

ブロードキャスト
インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント
インタフェースアドレス:
相手インタフェースアドレス:
相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

13 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

14 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

お知らせ

インターネットダイヤルアップ端末型接続では、DHCP機能がON、NAT機能がON、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 WAN回線の選択 (WANコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan dual」を入力します。

```
conf#wan dual
```

3 認証アカウントの設定 (hostnameコマンド)

「認証アカウント (fitelnet)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add1] は、設定項目を1エントリー目へ登録することを意味します。

```
conf#hostname add 1 default=fitelnet
```

4 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (PHS、TA)」、「接続相手のISDN番号 (0706111yyyy、035555zzzz)」を「target」コマンドで入力します。コールバックについてもここで「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=PHS dial=0706111yyyy host=default
key=nc,phs cbmode=server cbmethod=none cbdeny=ok speed=piafs64
conf#target add name=TA dial=035555zzzz host=default key=nc,ta
cbmode=server cbmethod=server cbdeny=no
```

5 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、「自局の複数相手接続を使用する」を「isdn」コマンドで入力します。

[recvcheck=on] は着信時にPPP認証を行うことを意味します。

[-1] は対象のISDN B1回線の指定を意味します。

```
conf#isdn recvcheck=on multimode=on
conf#isdn -1 dial=031234xxxx
```

4
使
ル
ル
ー
タ
機
能
を

6 IPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「IPアドレス (192.168.1.1)」、「サブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。
[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.1.1,255.255.255.0
```

7 IPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

ISDN B1回線インタフェースを使うリモート側の「IPアドレス (192.168.1.10)」、「サブネットマスクパターン (255.255.255.255)」を「interface」コマンドで入力します。
[isdn1] はISDN B1回線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn1 remote=192.168.1.10,255.255.255.255
```

8 IPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

ISDN B2回線インタフェースを使うリモート側の「IPアドレス (192.168.1.20)」、「サブネットマスクパターン (255.255.255.255)」を「interface」コマンドで入力します。
[isdn2] はISDN B2回線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn2 remote=192.168.1.20,255.255.255.255
```

9 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します。

```
conf#ipripstatic delete all
```

デフォルトルートを「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add default=192.168.1.2
```


10 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT⁺(plus) 機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

11 設定を保存します。(←P41)

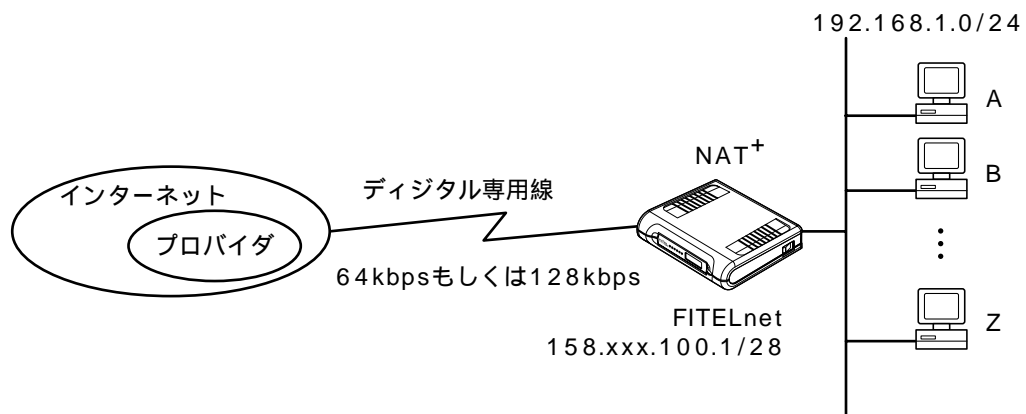
```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

設定G

インターネット専用線接続（OCNエコノミーなど）<NAT on>

専用線を用いてインターネットに接続する例について説明します。この例では、ユーザネットワークアドレスが、158.xxx.100.0/28ですから、端末13台分までのIPアドレスが使用できます。さらにNAT⁺機能を使用することにより、端末13台以上をインターネットに接続することができます。

Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目	設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度	128kbps
		契約IPアドレス	158.xxx.100.0
		契約IPアドレスサブネット長	28 (255.255.255.240)
		LAN側IPアドレス	LAN側は以下のIPアドレスを使用する
		LANインタフェースIPアドレス	192.168.1.1
		LANインタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡	受けていない

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。

3 専用線の回線速度、契約IPアドレスなどを下記のように入力します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: [168] [XXX] [100] [0] / [28]

LAN側とWAN側に同じIPアドレス(契約IPネットワーク番号の再若番)を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する(WAN側は契約IPネットワーク番号の再若番を設定する)

LANインタフェースIPアドレス: [192] [168] [1] [1]
LANインタフェースサブネットマスク: [255] [255] [255] [0]
(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

連絡を受けた接続先IPアドレス: [] [] [] []

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

4 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

5 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

4
使う
ルータ
機能を

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。
ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択(HSD回線)」、「回線速度の設定(128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力し、[Enter]を押します。

```
conf#wan hsd 128
```

- 3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス(192.168.1.1)」、「サブネットマスク(255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.1.1,255.255.255.0
```

- 4 HSD回線のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

HSD回線の「接続先IPアドレス(158.xxx.100.1)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。ISDN B1はダウンさせます。

```
conf#interface isdn1 down  
conf#interface hsd addr=158.xxx.100.1 remote=0.0.0.0
```

5 デフォルトルートの設定 (ipripstatic コマンド)

「デフォルトルートの設定」を「ipripstatic」コマンドで入力します。[dst=0.0.0.0,0.0.0.0] [hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=0.0.0.0,0.0.0.0 nextif=hsd
```

6 アドレス変換の設定 (nat コマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用する」ために「nat natp」を入力します。

```
conf#nat natp if=hsd
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserver コマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために、「dhcpserver off」を入力します。

```
conf# dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

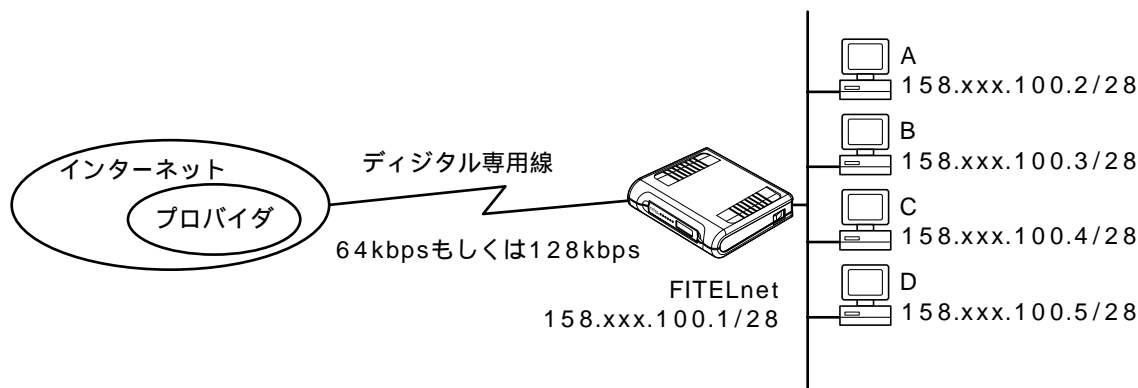
4
ルータ機能
を使う

設定H

インターネット専用線接続（OCNエコノミーなど）<NAT off>

専用線を使用してインターネットに接続する例について説明します。この例では、端末の台数分のグローバルIPアドレスを契約し、NAT+機能は使用しません。

Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目	設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度	128kbps
		契約IPアドレス	158.xxx.100.0
		契約IPアドレスサブネット長	28 (255.255.255.240)
		LAN側IPアドレス	LAN側でも契約IPアドレスを使用する
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を	受けていない

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。

ユーザIDとパスワードを入力してください。

(←P36)

3 専用線の回線速度、契約IPアドレスなどを下記のように入力します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: [59] [00] [0] / [8]

LAN側とWAN側に同じIPアドレス (契約IPネットワーク番号の再番号) を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する (WAN側は契約IPネットワーク番号の再番号を設定する)

LANインタフェースIPアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

接続を受けた接続先IPアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

4 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

5 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

4
ルータ機能
を使う

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(☞P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

- 2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (HSD回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力します。

```
conf#wan hsd 128
```

- 3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス (158.xxx.100.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.240)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。LANインタフェースのIPアドレスは「契約IPアドレス (158.xxx.100.1)」から割り付け可能なIPホストアドレスの内の最も若い番号を割り付けてください。

```
conf#interface lan addr=158.xxx.100.1,255.255.255.240
```

- 4 HSD回線のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

HSD回線の「接続先IPアドレス (158.xxx.100.1)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。ISDN B1はダウンさせます。

```
conf# interface isdn1 down
conf#interface hsd addr=158.xxx.100.1 remote=0.0.0.0
```


5 デフォルトルートの設定 (ipripstatic コマンド)

「デフォルトルートの設定」を「ipripstatic」コマンドで入力します。[dst=0.0.0.0,0.0.0.0] はデフォルトルート、[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=0.0.0.0,0.0.0.0 nextif=hsd
```

6 アドレス変換の設定 (nat コマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserver コマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

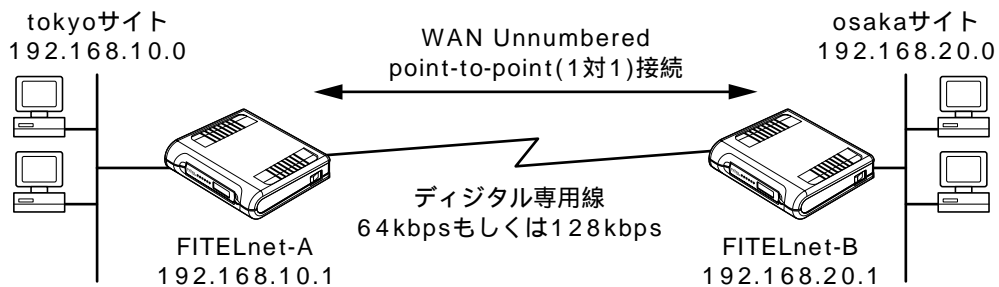
4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

具体的な設定方法

設定 I

専用線対向接続 (WAN Unnumbered)

2台の本装置を専用線を使って1対1 (point-to-point) に接続する例について説明します。この例では、WAN側にアドレスはふりません。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度		128kbps
		契約IPアドレス		192.168.10.0
		契約IPアドレスサブネット長		24 (255.255.255.0)
		LAN側IPアドレス		LAN側でも契約IPアドレスを使用する
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を		受けている
		連絡を受けた接続先IPアドレス		192.168.20.1
便利な設定	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.20.1
			メトリック	2
			プリファレンス	50

<Webブラウザ操作>

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。
- 3 専用線の回線速度を設定します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: /

LAN側とWAN側に同じIPアドレス (契約IPネットワーク番号の再番号) を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する (WAN側は契約IPネットワーク番号の再番号を設定する)

LANインタフェースIPアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

連絡を受けた接続先IPアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。
- 5 ルート情報を設定します。

通信先や中継先を下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録

番	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	IPアドレスとマスク長 <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="20"/> <input type="text" value="0"/> / <input type="text" value="24"/>	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="20"/> <input type="text" value="1"/> <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 <input type="text" value="ISDN1"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="50"/>

回線がISDN等のダイヤルアップ回線時は、その接続先を指定して下さい。
接続先に対応するインタフェースを指定して下さい。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

次ページへ続く

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

LAN側のIPアドレスは契約IPアドレス + 1のアドレスが自動的に割り当てられます。それ以外のアドレスにする場合は、「詳細設定」の「インタフェースの設定」でLANのインタフェースIPアドレスを変更してください。

4
使う
ルータ
機能を

6 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

7 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bも同様に設定してください。

お知らせ

専用線接続では、DHCP機能がOFF、NAT^{*}機能がOFF、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (HSD回線)」、「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力します。

```
conf#wan hsd 128
```

3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス (192.168.10.1)」、「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

4 HSD回線のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

「HSD回線のIPアドレス (192.168.10.1)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn1 down  
conf#interface hsd addr=192.168.10.1 remote=192.168.20.1
```

5 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録)」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.20.1] は、FITELnet-Bへのルーティング情報を意味します。

```
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.20.1
```

4
使
ル
タ
機
能
を

6 NAT⁺機能の設定 (natコマンド)

「NAT⁺機能」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserverコマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(☞P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-Bも同様に設定してください。

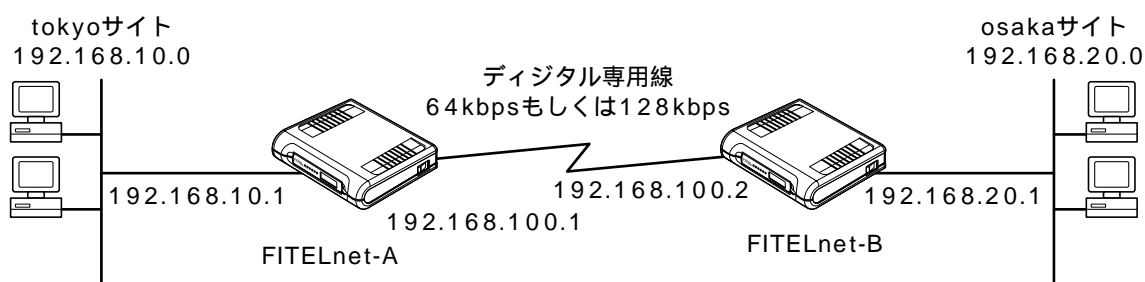
FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan hsd (128kbpsを利用する場合は、wan hsd 128 とする)  
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0  
conf#interface hsd addr=192.168.20.1 remote=192.168.10.1  
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.10.1  
conf#nat off  
conf#dhcpserver off  
conf#exit  
Configuration modified. save OK? (y/n): y  
please reset#reset  
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定J

専用線対向接続 (WAN Numbered)

2台の本装置を専用線を使って接続する例について説明します。この例では、WAN側にアドレスをふっています。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度		128kbps
		契約IPアドレス		192.168.100.0
		契約IPアドレスサブネット長		24 (255.255.255.0)
		LAN側IPアドレス		LAN側は以下のIPアドレスを使用する
		LANインタフェースIPアドレス		192.168.10.1
		LANインタフェースサブネットマスク		255.255.255.0
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を		受けていない
便利な設定	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.2
			メトリック	2
			プリファレンス	50

4
ルータ機能を使う

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。
- 3 専用線の回線速度を設定します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: /

LAN側とWAN側に同じIPアドレス(契約IPネットワーク番号の再若番)を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する(WAN側は契約IPネットワーク番号の再若番を設定する)

LANインタフェースIPアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

接続を受けた接続先IPアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。
- 5 ルート情報を設定します。

通信先や中継先を下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録

No.	通信先指定 IPアドレス/マスク	中継先指定 IPアドレス/マスク	ホスト名	プロトコル
1	<input type="text" value="192.168.100.0"/> / <input type="text" value="24"/>	<input type="text" value="192.168.100.2"/>		<input type="text" value="2"/>

通信先指定: 必ずしも指定
 任意のIPアドレス指定
 任意のIPアドレス指定

中継先指定: 必ずしも指定
 任意のIPアドレス指定
 任意のIPアドレス指定

ホスト名:

プロトコル:

インタフェース指定:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(←P36)

LAN側のIPアドレスは契約IPアドレス+1のアドレスが自動的に割り当てられます。それ以外のアドレスにする場合は、「詳細設定」の「インタフェースの設定」でLANのインタフェースIPアドレスを変更してください。

6 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

7 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bも同様に設定してください。

4
ルータ機能を
使う

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (HSD回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力します。

```
conf#wan hsd 128
```

- 3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス(192.168.10.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

- 4 HSD回線のIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「HSD回線のIPアドレス (192.168.100.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#interface hsd addr=192.168.100.1,255.255.255.0
```

- 5 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録)」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2] は、FITELnet-Bへのルーティング情報を意味します。

```
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
```

6 NAT⁺機能の設定 (natコマンド)

「NAT⁺機能」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserverコマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-Bも同様に設定してください。

FITELnet-B装置側コマンド設定例

```
conf#wan hsd 128  
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0  
conf#interface hsd addr=192.168.100.2,255.255.255.0  
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1  
conf#nat off  
conf#dhcpserver off  
conf#exit  
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y  
please reset#reset  
Do you want to continue (y/n)?: y
```

4
ルータ機能を
使う

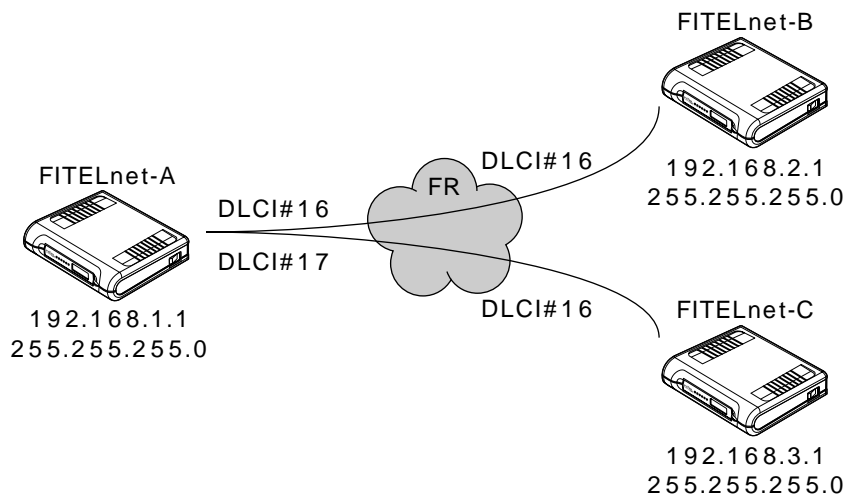
具体的な設定方法

設定K

フレームリレー接続 (WAN Unnumbered、InverseARP使用、スタティックルート)

3台の本装置をフレームリレーを使って接続する例について説明します。FITELnet-Aと、FITELnet-BおよびFITELnet-Cをポイントツーポイント (Unnumbered) で接続します。

ネットワーク間のルーティング情報はスタティックで運用され、インタフェースアドレスは、InverseARPにより、互いに自動的に割り付けられます。各フレームリレー回線の回線速度は128kbps、CIR値は32kbpsとします。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	フレームリレー接続の登録変更	設定1	DLCI	16
			PIR	128kbps
			CIR	32kbps
		設定2	DLCI	17
			PIR	128kbps
			CIR	32kbps
	LANインタフェースアドレス	192.168.1.1		
	LANインタフェースサブネットマスク	255.255.255.0		
便利な設定	IP RIPスタティック (設定1)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.2.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.2.1
			メトリック	2
			プリファレンス	50
		IP RIPスタティック (設定2)	通信先の指定	IPアドレス
	マスク長			24 (255.255.255.0)
	中継先の指定		IPアドレス	192.168.3.1
			メトリック	2
		プリファレンス	50	

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [フレームリレー接続] をクリックします。
- 3 フレームリレーに関する設定をします。

フレームリレーの回線速度、DLCI、LANインタフェースアドレス、LANインタフェースアドレスサブネットマスクを下記のように入力します。フレームリレーのインタフェースはpoint-to-pointにあらかじめ設定されています。

フレームリレー接続の登録変更

フレームリレーの回線速度: 64kbps 128kbps

LANインタフェースアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

DLCI:	<input type="text" value="16"/>	PIR:	<input type="text" value="128"/>	kbps	CIR:	<input type="text" value="32"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text" value="17"/>	PIR:	<input type="text" value="128"/>	kbps	CIR:	<input type="text" value="32"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps
DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps	DLCI:	<input type="text"/>	PIR:	<input type="text"/>	kbps	CIR:	<input type="text"/>	kbps

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

次ページへ続く

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

4
使う
ルータ
機能を

具体的な設定方法

5 ルート情報を設定します。

通信先や中継先を下記のように入力します。この例では2件登録しています。

IP RIP スタティックの登録

番	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク長 192.168.2.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.2.1 <input type="checkbox"/> ダイアルアップ接続先指定 <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [SDNI]	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="50"/>
2	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク長 192.168.3.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.3.1 <input type="checkbox"/> ダイアルアップ接続先指定 <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [SDNI]	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="50"/>

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

6 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

7 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-B、FITELnet-Cも同様に設定してください。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wan コマンド)

「WAN回線の選択 (FR回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan fr 128」を入力します。

```
conf#wan fr 128
```

3 データ接続識別子 (DLCI) の設定 (dlcI コマンド)

「DLCI (16)」に対して、「転送速度 (128)」、 「CIR (32)」を「dlci」コマンドで入力します。

「DLCI (17)」に対しても同様に設定します。

```
conf#dlci 16 pir=128 cir=32  
conf#dlci 17 pir=128 cir=32
```

4 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interface コマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス (192.168.1.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.1.1,255.255.255.0
```

5 FR回線インタフェースの設定 (interface コマンド)

「FR回線のインタフェース (point-to-point)」を「interface」コマンドで入力します。

[fr] はフレームリレーインタフェースを意味します。

```
conf#interface fr type=pointtopoint
```

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

次ページへ続く

6 ルーティング情報送受信の設定 (rtcontrol コマンド)

「ルーティング情報送受信 (OFF)」を「rtcontrol」コマンドで入力します。

```
conf#rtcontrol fr send=off rcv=off
```

7 ルート情報の設定 (ipripstatic コマンド)

「ルート情報設定」を「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.2.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.2.1 metric=2  
conf#ipripstatic add dst=192.168.3.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.3.1 metric=2
```

8 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserver コマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

9 設定を保存します。(P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-B、FITELnet-Cも同様に設定してください。

FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan fr 128
conf#dlci 16 pir=128 cir=32
conf#interface lan addr=192.168.2.1,255.255.255.0
conf#interface fr type=pointtopoint
conf#rtcontrol fr send=off rcv=off
conf#ipripstatic add dst=192.168.1.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=2
conf#ipripstatic add dst=192.168.3.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=3
conf# dhcp off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

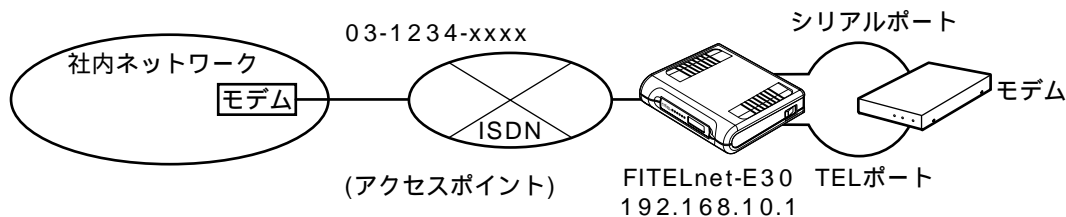
FITELnet-Cの設定例

```
conf#wan fr 128
conf#dlci 16 pir=128 cir=32
conf#interface lan addr=192.168.3.1,255.255.255.0
conf#interface fr type=pointtopoint
conf#rtcontrol fr send=off rcv=off
conf#ipripstatic add dst=192.168.1.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=2
conf#ipripstatic add dst=192.168.2.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=3
conf#dhcp off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定L

モデム接続

FITELnet-E30のシリアルポートにモデムを接続し、アナログ回線を利用するときの設定について説明します。Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。本装置のシリアルポートとモデムは、モデムに添付されたケーブルまたはシリアルケーブル（ストレート）で接続します。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	モデムを使用した接続の登録変更	他の回線との一緒の使用		使用する
		ダイヤル種別		トーン
		回線速度		28800
		モデム初期化コマンド	送信	ATE0V0
			受信	0またはOK
		回線切断コマンド	送信	ATH
			受信	0またはOK
		アクセスポイント		03-1234-xxxx
		認証（接続）ID		marry
		認証（接続）パスワード		xyz-123
		プライマリDNSアドレス		xxx.xxx.xxx.xxx
セカンダリDNSアドレス		yyy.yyy.yyy.yyy		
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.10.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		WAN#1インタフェース	相手インタフェースアドレス	0.0.0.0
			相手インタフェースサブネットマスク	0.0.0.0

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [モデムを利用した接続] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

3 接続条件を設定します。

他の回線と一緒に使用するかどうか、ダイヤル種別、回線速度を下記のように入力します。

モデムを利用した接続の登録変更

他の回線 (ISDN回線等)と一緒に使用に 使用する、 使用しない

ダイヤル種別: トーン パルス

FITELnetとモデム間の通信速度:

4 モデム初期化コマンドを設定します。

モデムを初期化するためのATコマンドを下記のように入力します。

モデム初期化コマンド (モデム認識時、モデムに対して送信します):

1. 送信	<input type="text" value="ATE0V0"/>	
受信	<input type="text" value="OK"/>	又は
	<input type="text" value="0"/>	
2. 送信	<input type="text"/>	
受信	<input type="text"/>	又は
	<input type="text"/>	
3. 送信	<input type="text"/>	
受信	<input type="text"/>	又は
	<input type="text"/>	
4. 送信	<input type="text"/>	
受信	<input type="text"/>	又は
	<input type="text"/>	

5 回線切断コマンドを設定します。

回線を切断するためのATコマンドを下記のように入力します。

回線切断コマンド (回線切断時、“+++”コマンドに続いてモデムに送信します):

1. 送信	<input type="text" value="ATH"/>	
受信	<input type="text" value="OK"/>	又は
	<input type="text" value="0"/>	

6 接続先の設定をします。

プロバイダに接続するとき使用するアクセスポイントの電話番号、認証 (接続) ID、認証 (接続) パスワードを下記のように入力します。

アクセスポイント:	<input type="text" value="031234xxxx"/>
認証 (接続) ID:	<input type="text" value="marr"/> (最大127文字まで)
認証 (接続) パスワード:	<input type="text" value="xyz-123"/> (最大32文字まで)
プライマリDNSアドレス:	<input type="text" value="xxx"/> <input type="text" value="xxx"/> <input type="text" value="xxx"/> <input type="text" value="xxx"/>
セカンダリDNSアドレス:	<input type="text" value="yyy"/> <input type="text" value="yyy"/> <input type="text" value="yyy"/> <input type="text" value="yyy"/>

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容がFITELnet-E30に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

お知らせ

ATコマンドに関しては、モデムの取扱説明書を参照してください。

次ページへ続く

4
ルータ機能を
使う

具体的な設定方法

7 ルータの [詳細設定] をクリックします。

8 [インタフェースの設定] をクリックします。

9 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:

10 シリアルインタフェースを設定します。

[ポイントツーポイント] をクリックし、相手インタフェースアドレス、相手インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。

シリアルインタフェース:

ダウン
 ブロードキャスト
 インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:
 ポイントツーポイント
 インタフェースアドレス:
 相手インタフェースアドレス:
 相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

11 設定内容を有効にするには、FITELnet-E30のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

12 [装置をリセットする] をクリックします。

FITELnet-E30が再起動し、設定内容が有効になります。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (←P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 モデムの回線速度の選択 (asyncコマンド)

「モデムの回線速度」を設定するため「async speed=28800」を入力します。

```
conf#async speed=28800
```

3 モデムの初期設定 (modemコマンド)

「ダイヤル種別」を、「modem」コマンドで入力します。

```
conf#modem dial=tone
```

また、モデムの初期化、切断に関するATコマンドを「modem」コマンドで登録します。

なお、装置導入時には、

初期化コマンド：送信 (ATE0V0)、受信 (0またはOK)

切断コマンド：送信 (ATH)、受信 (0またはOK)

が登録されています。

4 認証アカウント、認証パスワードの設定 (hostnameコマンド)

「認証アカウント(marry)」、「認証パスワード(password=xyz-123)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add 1]は、設定項目を1エントリー目へ登録することを意味します。

この入力により「PPP認証 (使用する)」も登録されます。

```
conf#hostname add 1 default=marry password=xyz-123
```

5 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド・targetinterfaceコマンド)

「ターゲット名称 (async-easysetting)」、「ISDN番号 (031234xxxx)」を「target」コマンドで入力します。

[add]は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=async-easysetting dial=031234xxxx
conf#targetinterface add name=async-easysetting interface=async
```

4
使
ル
タ
機
能
を

6 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「サブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

7 モデムインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「モデム側のIPアドレス」、 「サブネットマスク」を「interface」コマンドで入力します。

```
conf#interface async remote=0.0.0.0
```

8 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリーを削除します。

```
conf#ipripstatic delete all
```

「ルート情報設定 (default=async-easysetting)」を「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add]は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add default=async-easysetting
```

9 アドレス変換の設定 (natpコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用する」ために「natp」を入力します。

```
conf#nat natp if=async
```

10 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserverコマンド)

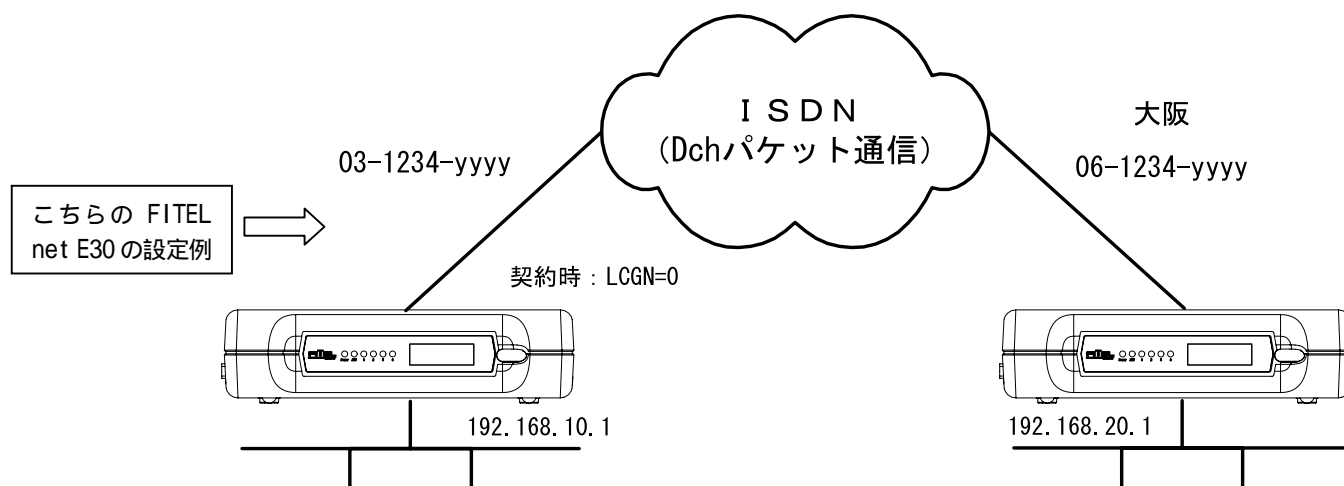
「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

11 設定を保存します。(P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-E30 Dch パケット通信の設定



1 . コンフィグレーションモードに移行します .

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 . WAN 回線の選択 (WAN コマンド)

WAN 回線に ISDN を指定するために , "wan isdn" を入力します .

```
conf#wan isdn
```

3 . 接続相手のターゲット名称 , ISDN 番号 , 着信認証番号 (target コマンド)

接続相手のターゲット名称等を , target コマンドで入力します . D チャネルパケット通信を行う相手の場合には , "speed=dp" を指定します .

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy speed=dp
```

接続相手が DDX-P の場合、加入者番号の前に 14401 をつけてください .

```
conf#target add name=osaka dial=14401061234yyyy speed=dp
```

4 . 自局の ISDN 番号の設定 (isdn コマンド)

自局の ISDN 番号を , isdn コマンドで入力します .

```
conf#isdn -dp dial=031234xxxx
```

5 . LAN の IP アドレス , サブネットマスクパターンの設定 (interface コマンド)

LAN の IP アドレス / サブネットマスクパターンを , interface コマンドで入力します .

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 . D チャネル回線の IP アドレス , サブネットマスクパターンの設定 (interface コマンド)

ISDN 回線の IP アドレス / サブネットマスクパターンを , interface コマンドで入力します .

```
conf#interface dp remote=192.168.20.1,255.255.255.0
```

7 . ルート情報の設定

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します .

```
conf#ipripstatic delete all
```

ルート情報設定 (宛先アドレス : 192.168.20.0 / NextHop : 192.168.20.1) .

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.20.1
```

8 . LCGN の設定

契約した LCGN 値を設定します .

```
conf#dchpacket lcgcn=0
```

フロー制御パラメータネゴシエーションの契約を行った場合は , パケット長 / ウィンドウサイズのパラメータを設定します . パケット長パラメータは "packetlen=" , ウィンドウサイズパラメータは "windows=" で指定します . パラメータの指定方法は , コマンドリファレンスを参照してください .

```
conf#dchpacket lcgcn=0 packetlen=128 windows=on
```

9 . 設定を保存し再起動します .

```
conf#exit
configuration modified. save OK ? (y/n): y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```


ISDN回線の接続について

使用するWAN回線と回線速度および運用形態を設定します。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
[ISDN回線の接続について] 画面が表示されます。
- 3 ISDN回線の2回線あるBチャネルの利用方法を説明します。

4種類のISDN接続形態の中から、設定する接続形態をクリックします。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続

他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

接続形態	説明
同時1箇所接続	ISDN#1だけを通常回線として使用します。
自動MP接続	ISDN#1を通常回線、ISDN#2をトラフィック分散回線として使用します。トラフィック分散回線の接続/切断はトラフィック量に応じて自動的に行います。
強制MP接続	ISDN#1を通常回線、ISDN#2をトラフィック分散回線として使用します。トラフィック分散回線の接続/切断は、通常回線の接続/切断に連動します。
同時2箇所接続	ISDN#1およびISDN#2を通常回線としてそれぞれ別の相手と接続します。

次ページへ続く

4 運用形態を設定します。

B1:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
 着信時の発信者番号 (相手の電話番号) チェック: する しない
 着信時、相手をPPP認証: する しない
 発呼時、相手をPPP認証: する しない
 装置連続接続リミッターは、 利用しない 時間後に設定する

- [接続方法]
手動接続するか自動接続するかを選択します。
- [自局電話番号]
自局のISDN番号を入力します。
- [自局サブアドレス]
自局のISDNサブアドレスを入力します。
- [契約番号での着信]
グローバル着信を受け付けるかどうかを設定します。
- [発呼接続時の無通信時間]
ISDN発呼時、ここで設定した時間、通信がなければISDNを切断します。
- [着呼接続時の無通信時間]
ISDN着呼時、ここで設定した時間、通信がなければISDNを切断します。
- [データ受信は無通信とするか]
データ受信を通信とは判断するかどうかを選択します。無通信とした場合、データ受信だけが続けても無通信時間に設定した時間が経過した場合は、ISDNを切断します。
- [着信時の発信者番号 (相手の電話番号) チェック]
登録した相手以外からの着信を受け付けるかどうかを選択します。
- [着信時、相手をPPP認証]
着信時に相手のPPP認証を行うかどうかを選択します。PPP認証を行う場合は相手ごとにID・パスワードを設定します。(➡P227)
- [発呼時、相手をPPP認証]
発呼時に相手のPPP認証を行うかどうかを選択します。PPP認証を行う場合は相手ごとにID・パスワードを設定します。
- [装置連続接続リミッター]
発呼・着呼にかかわらず、連続でISDNがつながりっぱなしになった場合、異常と判断し装置を使用できない状態になってしまうかどうか、および許容時間を設定します。使用できない状態になった場合、リセットしないと復旧できません。

5 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録

ダイヤルアップ接続するときに使用する認証IDとパスワードを合計4つまで設定することができます。4つのうち1つは簡単設定で設定した認証IDとパスワードが設定済みになっています。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録] をクリックします。

3 認証IDとパスワードを設定します。

ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録

認証ID	パスワード
1. kantansetteidesetteishitaID	kantansetteidesetteishitapassword
2. <input type="text"/>	<input type="text"/>
3. <input type="text"/>	<input type="text"/>
4. <input type="text"/>	<input type="text"/>

• [認証ID]

プロバイダを使用する場合は、プロバイダから指定されたユーザID (ホスト名称) を入力します。半角英数字127文字以内で入力してください。ルータの簡単設定の中の [ISDNダイヤルアップ接続] で設定したユーザID (ホスト名) がデフォルトとなります。

• [パスワード]

CHAP認証またはPAP認証機能を使用する場合の応答用パスワードを入力します。

プロバイダを使用する場合は、プロバイダから指定されたユーザパスワードを入力します。半角英数字32文字以内で入力してください。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ダイヤルアップ回線接続先の登録

ダイヤルアップ接続を行うときは、接続先の相手を最大20件まで登録できます。ISDN回線のリモートターゲットとリモートターゲットのISDN番号、発着信認証モードとパスワードなどの設定を行います。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。
- 3 登録先を追加またはレコードを選択します。
新規または追加でISDN回線接続先を登録するときは、[新規登録] をクリックします。
- 4 相手の電話番号、サブアドレスと認証データを設定します。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. <input type="text"/>	<input type="text"/>
2. <input type="text"/>	<input type="text"/>
3. <input type="text"/>	<input type="text"/>

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番目の内容を使用する

- [相手の電話番号]
宛先のISDN番号を市外局番から入力します。
3桁～32桁で入力してください。
- [相手のサブアドレス]
サブアドレスを使用するときは半角英数字19文字以内で入力してください。
- [next_gatewayとして接続するときの回線インタフェース]
接続する際に使用するインタフェースを選択します。
- [ダイヤルアップ接続時の認証データ]
ダイヤルアップで接続するときに使用する認証データのグループ番号を選択します。グループ番号は「ダイヤルアップ接続用認証データ複数登録」で設定します。

ワンポイント

登録済みのISDN回線接続先を修正または削除するときは

手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

5 着信時の認証方法などを設定します。

- [着信時の相手認証用ID]
外部からアクセスがあったときに、認証に使用する着信IDを入力します。また回線を接続する際、相手の名称としてこのIDを指定します。(☞P253)
- [着信時の相手認証用パスワード]
外部からアクセスがあったときに、認証に使用する着信パスワードを入力します。
- [着番号読み飛ばし桁数]
着番号読み飛ばし桁数を0～31の範囲で入力します。

6 PIAFS接続の有無を設定します。

PIAFSを使った接続を利用するときは、[する] をクリックしてください。PIAFS接続をする場合は、64K (ギャランティ方式、ベストエフォート方式)、32Kのどちらかを選択してください。

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:ギャランティ方式) する(64k:ベストエフォート方式)

7 コールバック受付の設定をします。

接続先から本装置に対し電話をかけ直すように要求があった場合に、かけ直しをするかどうかを設定します。コールバックを受付るときは、[する(無課金)] [通知された所へする] [登録している所へする] の中から選択します。

コールバック:
 しない
 する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

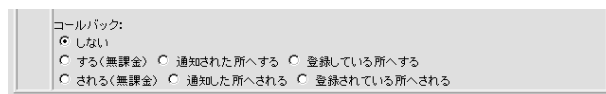
次ページへ続く

4
使う
ルータ機能
を

ルータの便利な設定

8 コールバック要求の設定をします。

本装置から接続先に電話をかけて、接続は行わずに本装置の電話番号だけを接続先に通知し、接続先から本装置に電話をかけ直して接続することができます。コールバック要求を行うときは、[される(無課金)] [通知した所へされる] [登録されている所へされる]の中から選択します。



9 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

10 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☛P41)

DHCPサーバ機能

本装置に接続している端末に対して、自動的にIPアドレスを割り付けるかどうかを設定します。自動的にIPアドレスを割り付けない場合は、各端末それぞれに手動でIPアドレスを割り付けてください。

DHCPサーバ機能が「on」の時、DHCPアロケート開始アドレス（配布先端末の指定で指定されたIPアドレス）から始まり、DHCPアロケート数（割り付け可能なIPアドレスの個数）分のIPホストアドレスを割り付けます。DHCPアロケートアドレスが 0.0.0.0 の場合は、LANインタフェースに設定されたIPアドレスが属するネットワーク番号内の最初のホストアドレスからDHCPアロケート数で示される分のIPホストアドレスを割り付けます。

「IPアドレス」が割り付け可能かどうかはARPによりチェックします。（ARPの応答がタイムアウトした内容を配信可能アドレスとします。）

1 ルータの[便利な設定]をクリックします。

2 [DHCPサーバ機能]をクリックします。

3 本装置のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[ON]をクリックします。

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能: OFF ON

次ページへ続く

4
ルータ機能
を使う

4 DHCPサーバの動作と配信データの設定をします。

以降はDHCPサーバ機能がONの時有効となります。

配信IPアドレスの開始値:

LANインタフェースIPアドレスの次から開始する
 [] [] [] [] の値から開始する

デフォルトゲートウェイの通知: しない する

ドメイン名称の通知: しない する
通知するドメイン名称: [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

DNSアドレスの通知: しない する
DNSプライマリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
DNSセカンダリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

WINSアドレスの通知: しない する
WINSプライマリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
WINSセカンダリアドレス: [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

- [配信IPアドレスの開始値]
配信IPアドレスの開始値を、LANインタフェースのIPアドレスの次から開始するのか、または指定したIPアドレスから開始するのかを選択します。指定したIPアドレスから開始するときは、IPアドレスを入力してください。
- [デフォルトゲートウェイの通知]
DHCPサーバを利用する時、LANインタフェースのアドレスをデフォルトゲートウェイとして通知するかどうかを選択します。
- [ドメイン名称の通知]
ドメイン名称を通知するかどうかを選択します。通知するときは、ドメイン名称を半角英数字40文字以内で入力してください。
- [DNSアドレスの通知]
DNSアドレスを通知するかどうかを選択します。通知するときは、DNSサーバ(ネームサーバ)のIPアドレスを入力してください。セカンダリまで設定できます。
- [WINSアドレスの通知]
WINSアドレスを通知するかどうかを選択します。通知するときは、NetBIOSサーバのIPアドレスを入力します。最大2件まで登録できます。

お知らせ

DHCPサーバを使用するにはサーバからIPアドレスを取得する設定が、クライアント側に必要です。

5 DHCPスタティック登録をします。

最大16件まで登録することができます。

配付アドレスのスタティック登録:

	配付先端末の指定 MACアドレス						配付するIPアドレス								
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
13.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
14.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
16.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- [配付先端末の指定]
配付先の端末を指定するためにMACアドレスを入力します。
- [配付するIPアドレス]
端末に対して割り付けるIPアドレスを入力します。

6 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(← P 41)

ルータの便利な設定

NAT⁺機能

アドレス変換とアドレス変換スタティックを設定することができます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [NAT⁺機能] をクリックします。
- 3 本装置のNAT⁺機能を使用する場合は、[ON] をクリックします。

NAT機能

NAT機能: OFF NAT ON NAT⁺ON

- 4 NAT⁺機能を有効にするインタフェースをクリックします。

以降はNAT又はNAT⁺機能がONの時有効となります。

NAT又はNAT⁺機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2 ASYNC DP

[NATスタティック登録](#)

[NAT⁺スタティック登録](#)

- 5 NATスタティック登録とNAT⁺スタティック登録を行います。

NATスタティック登録 (← P 233)

NAT⁺スタティック登録 (← P 234)

- 6 [送信] ボタンをクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 7 [OK] ボタンをクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(← P 41)

NATスタティック登録

LAN側のIPアドレス(ローカルアドレス)とWAN側のIPアドレス(グローバルアドレス)の変換を固定的に設定することができます。16件まで登録できます。この機能はNAT機能がONのときに有効です。

1 NAT機能画面 (← P 232) で、[NATスタティック登録] をクリックします。

2 LAN側アドレスとWAN側アドレスを設定します。

LAN側アドレスとWAN側アドレスの間でIPアドレス変換が行われるようにデータを登録します。

	LAN上の端末指定 IPアドレス	外部に見えるIPアドレス
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
13.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
14.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
16.	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- [LAN上の端末指定]
NATで変換するときのLAN側端末のIPアドレスを入力します。
- [外部に見えるIPアドレス]
NATで変換後のIPアドレスを入力します。

3 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(← P 41)

NAT⁺スタティック登録

IPの宛先ポートにより、変換するローカルアドレスを指定することができます。
 例えば、ポート5000番宛ての通信はローカル端末Aのポート200番宛てに変換し、ポート5001番宛ての通信はローカル端末Bのポート300番宛てに変換することができます。
 NAT⁺を利用すると、ダイヤルアップ端末型で契約した場合でも、外部からローカル端末にアクセスすることができます。設定には、ローカル端末のIPアドレス・ポート番号・グローバルアドレスを設定します。32件まで登録できます。この機能はNAT⁺機能がONのときに有効です。

- 1 NAT機能画面 (←P232) で、[NAT⁺スタティック登録] をクリックします。
- 2 ポート番号まで含めたアドレス変換スタティックを設定します。

NAT⁺スタティック登録

この登録はNAT⁺機能がONの時有効となります。

削除	LAN上の端末指定		外部に見えるIPアドレスとポート番号	
	IPアドレス	ポート番号	接続先より配布されるアドレスを	ポート番号範囲
1. <input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="radio"/> 使用する	<input type="radio"/> 使用しない <input type="text"/> ~ <input type="text"/>

- [LAN上端末のIPアドレス]
NAT⁺で変換するときのLAN側端末のIPアドレスを入力します。
- [LAN上端末のポート番号]
LAN側端末のポート番号を0～65535の範囲で入力します。
- [外部に見えるIPアドレス]
接続先から割り付けられる値を使用するかしないかを選択します。使用しない場合は、NAT⁺変換後のIPアドレスを入力します。
- [外部に見えるポート番号]
外部用に割り付けるポート番号を0～65535の範囲で入力します。

- 3 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(←P41)

ワンポイント

登録済みのアドレス変換スタティックを削除するときは
 手順2で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

syslogの送信

Syslogを指定先に送信するかどうかを設定します。Syslogサーバと送信するログの種類も設定することができます。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [syslogの送信] をクリックします。

3 syslogの送信設定をします。

syslogの送信

syslogの送信: しない する

以降はsyslogの送信を行う時に有効となります。

syslogを受け取る端末のIPアドレス:

tlog(errレベル)で送信: しない する

elog(warningレベル)で送信: しない する

llog(infoレベル)で送信: しない する

alog(infoレベル)で送信: しない する

vlog(infoレベル)で送信: しない する

- [syslogの送信]
syslogを送信するかどうかを選択します。
- [syslogを受け取る端末のIPアドレス]
本装置が送信するsyslogを受信するsyslogサーバのIPアドレスを設定します。
- [tlog(errレベル)で送信]
syslog機能を使用して、errレベルでtlogを送信するかどうかを選択します。
- [elog(warningレベル)で送信]
syslog機能を使用して、warningレベルでelog(エラーログ)を送信するかどうかを選択します。
- [llog(infoレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでllog(LAN・WAN回線の状況)を送信するかどうかを選択します。
- [alog(errレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでalog(接続要因パケットログ)を送信するかどうかを選択します。
- [vlog(infoレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでvlog(イベントログ)を送信するかどうかを選択します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

4
使う
ルータ
機能
を

ルータの便利な設定

ISDN回線の接続が可能なパケットの指定

登録してあるパケットだけにISDN回線の接続が許可されます。登録されているパケットがないときは、すべてのパケットに対してISDN回線の接続が許可されます。4件まで登録できます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続が可能なパケットの指定] をクリックします。
- 3 パケットを指定します。

ISDN回線の接続が可能なパケットの指定

ここへ登録されているパケットが何も無い場合は、すべてのパケットに対してISDN回線の接続が許可されます。

削除	パケット送信元指定				パケット受信先指定				プロトコル	
	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲		
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	tcp/udp
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	tcp/udp
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	tcp/udp
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	tcp/udp

- [パケット送信元指定]
ISDNの発信を許可するパケットの発行元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力してください。
- [パケット受信先指定]
ISDNの発信を許可するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力してください。
- [プロトコル]
ISDNの発信を許可するパケットのプロトコルを全て、tcp/udp、icmp、tcp、udp、任意の中から選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

ワンポイント

登録済みのパケットを削除するときは手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

IPパケットフィルタリング

中継用・遮断用それぞれに、宛先IPアドレス、送信元IPアドレス、プロトコルを指定して、その条件に合ったデータを中継または遮断するように設定することができます。中継用は32件、遮断用は16件まで設定できます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [IPパケットフィルタリング] をクリックします。
- 3 IPパケットフィルタリング機能を使うときは、[ON] をクリックします。

IPパケットフィルタリング

IPパケットフィルタリング機能: OFF ON

- 4 中継するIPパケットまたは遮断するIPパケットを登録します。

中継するIPパケットの登録を行う (← P 238)

上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う (← P 239)

以降はIPパケットフィルタリング機能がONの時有効となります。

[中継するIPパケットの登録を行う](#)

[上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う](#)

特定のIPパケットを中継したくない場合は、中継するIPパケットとして「全て」を登録してから、中継したくないIPパケットの登録に特定のIPパケットを登録して下さい。

- 5 中継または遮断するIPパケットの登録が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(← P 41)

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

お知らせ

本装置では、自動でUDPのポート番号137～139発/宛のパケットを切断するエントリが追加されます。

中継するIPパケットの登録

中継するIPパケットを登録します。32件まで登録できます。この機能はIPパケットフィルタリング機能がONのときに有効です。特定のIPパケットだけを遮断するときは、ここではすべてのIPパケットを中継するように登録し、中継したくないIPパケットだけを別途登録してください。(☞P239)

1 IPパケットフィルタリング画面(☞P237)で、[中継するIPパケットの登録を行う]をクリックします。

2 中継するIPパケットを設定します。

中継するIPパケットの登録

ここへ登録されているIPパケットだけが中継の対象となります。

No	パケット送信元指定			パケット受信先指定			プロトコル	インタフェース指定
	IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲	IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲		
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	送信: 受信: established

- [パケット送信元指定]
中継するパケットの送信元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [パケット受信先指定]
中継するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [プロトコル]
中継する指定プロトコルを選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。
- [インタフェース指定:受信]
中継する受信インタフェースを選択します。
- [インタフェース指定:送信]
中継する送信インタフェースを選択します。

3 [送信]をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK]をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(☞P41)

ワンポイント

登録済みの中継するIPパケットを削除するときは
手順2で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして[送信]を押します。

中継しないIPパケットの登録

中継の対象となっているIPパケットのうちで遮断するIPパケットを登録します。16件まで登録できます。この機能はIPパケットフィルタリング機能がONのときに有効です。

1 IPパケットフィルタリング画面(←P237)で、
[上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う] をクリックします。

2 遮断するIPパケットを設定します。

中継しないIPパケットの登録

中継の対象となったIPパケットの内、遮断したいIPパケットを指定します。

IPパケット送信元指定			IPパケット受信先指定			プロトコル	インタフェース指定
IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲	IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲		
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0 ~ 65535	受信: [選択] 送信: [選択]

- [パケット送信元指定]
遮断するパケットの送信元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [パケット受信先指定]
遮断するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [プロトコル]
遮断する指定プロトコルを選択します。任意を選択したときは、0 ~ 255の範囲でプロトコルを指定してください。
- [インタフェース指定:受信]
遮断する受信インタフェースを選択します。
- [インタフェース指定:送信]
遮断する送信インタフェースを選択します。

3 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

ワンポイント

登録済みの中継しないIPパケットを削除するときには
手順2で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

4
使う
ルータ
機能を

IP RIPスタティック

ご利用になるLAN環境に複数のネットワークがあるときは、経路情報を設定することができます。WAN側またはLAN側で中継したいパケットを受け取った場合、そのパケットを送り出す先の情報を設定することができます。32件まで登録できます。中継先にはIPアドレス指定の他に、インタフェース指定ができます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [IP RIPスタティック] をクリックします。
- 3 IP RIPスタティックのルート情報を設定します。

IP RIP スタティックの登録

登録	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
	IPアドレスとマスク長	<input type="radio"/> IPアドレス指定 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 <input type="radio"/> インタフェース指定	ISDN ISDN	
1	0.0.0.0 / 0	0.0.0.0 / 0 ISDN	10	50

- [通信先指定]
スタティックルーティングの宛先のIPアドレスとマスク長を入力します。
- [中継先指定]
スタティックルーティングの中継先を指定します。IPアドレス、ISDN接続先指定、インタフェースの指定の中から選択します。
 - ・IPアドレス指定 IPアドレスを入力することにより、中継先を指定します。使用する回線が高速デジタル専用線、フレームリレー以外のときは、登録済みの接続相手を入力します。
 - ・ダイアルアップ接続先指定 登録済みの接続相手を入力することにより、中継先を指定します。
 - ・インタフェース指定 インタフェースを選択することにより、中継先を指定します。
- [メトリック]
宛先へのメトリック値を設定します。
- [プリファレンス]
RIP との優先順位を設定します。プリファレンス値の小さい方が優先順位が高くなります。RIPは100です。

ワンポイント

登録済みのIP RIPスタティックを削除するときは
手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

5 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

インタフェースの設定

IPルーティングの使用の有無および使用する場合のインタフェースに関する設定を行います。インターネットサービスプロバイダとISDNダイヤルアップ接続を行う場合は「インタフェースアドレス」と「リモートアドレス」とともに「0.0.0.0」を設定してください。「ブロードキャストアドレス」の設定は必要ありません。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [インタフェースの設定] をクリックします。
- 3 LANインタフェース、WAN#1インタフェース・WAN#2インタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(含むMF接続)、高速デジタル専用線、フレームリレーの内、いずれかの回線をご利用になる場合に対象となります。
フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行って下さい。

ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

- [LANインタフェース]
インタフェースIPアドレス、サブネットマスクを入力します。
- [WAN#1・WAN#2]
 - ・ダウン 指定インタフェースのルーティングをOFFにします。
 - ・ブロードキャスト インタフェースタイプがブロードキャストの時に選択します。
選択した場合は、WAN回線側のブロードキャストアドレスを入力します。
インタフェースサブネットマスクには、インタフェースアドレスに対するサブネットマスクを設定します。インタフェースタイプがブロードキャストの場合、新規登録時に設定が省略されると、インタフェースアドレスがクラスAでは255.0.0.0、クラスBでは255.255.0.0、クラスCでは255.255.255.0が設定されます。
 - ・ポイントツーポイント 相手インタフェースアドレスには、相手先のインタフェースアドレスを指定します。省略ができません。
相手インタフェースサブネットマスクには、インタフェースアドレスに対するサブネットマスクを設定します。

お知らせ

装置リセット後、有効となった内容は「ルーティングインタフェースの表示」画面(ipinterfaceコマンド)で確認できます。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(P41)

ProxyARPの設定

IPルーティングを使用する場合のProxyARP動作モードに関する設定を行います。

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [ProxyARPの設定] をクリックします。

3 ProxyARPの動作モードを選択します。

ProxyARPの設定

- しない
- 中継すべきアドレスのARPに答える
- 全てのアドレスのARPに答える

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

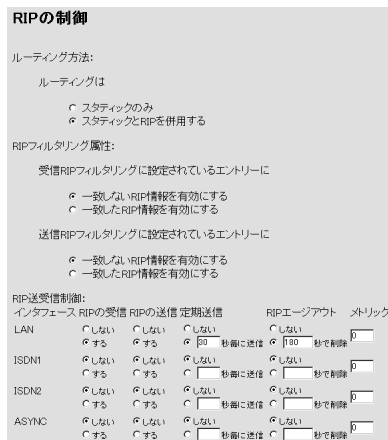
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

RIPの制御

IPルーティングを使用する場合のRIPの動作モードに関する設定を行います。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [RIPの設定] をクリックします。
- 3 RIPを設定します。



- [ルーティング方法]
RIPを利用したルーティング (ダイナミックルーティング) の動作を選択します。
- [受信RIPフィルタリングに設定されているエントリー]
受信RIPフィルタリング機能の動作モードを設定します。
受信RIPフィルタリングテーブルを設定してください。
(☞P245)
- [送信RIPフィルタリングに設定されているエントリー]
送信RIPフィルタリング機能の動作モードを設定します。
送信RIPフィルタリングテーブルを設定してください。
(☞P246)
- [RIP送受信制御]
インターフェース毎にRIPを送信する / しない、受信する / しない、定期送信する / しない、送信間隔等を設定します。

お知らせ

ISDN、ASYNCポートにRIPを定期送信すると回線がつながりっぱなしになり思わぬ課金を請求されることがあります。ISDN、ASYNCポートにはRIPを定期送信しないようにしてください。

- 4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☞P41)

受信RIPフィルタリングテーブル

RIPフィルタリング機能のフィルタリングテーブルを設定します。RIPパケット受信時に有効にする情報を受信インタフェースごとに限定することができます。40件まで設定できます。事前にRIPの制御の設定が必要です。(←P244)

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [受信RIPフィルタリングテーブル] をクリックします。

3 受信RIPフィルタリングテーブルを設定します。

削除	RIPの宛先IPアドレスとマスク長	受信インタフェース
<input type="checkbox"/>	□□□□□□ / □□□□	ISDN1

- [RIPの宛先IPアドレス]
受信ルーティング情報のフィルタリングの対象とする宛先IPアドレスを入力します。
- [マスク長]
宛先IPアドレスに対するマスク長を入力します。
- [受信インタフェース]
受信インタフェースを選択します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

4
ルータ機能
を使う

ワンポイント

登録済みの受信フィルタリングテーブルを削除するときは
手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

送信RIPフィルタリングテーブル

RIPフィルタリング機能のフィルタリングテーブルを設定します。RIPパケット送信時に有効にする情報を送信インタフェースごとに限定することができます。40件まで設定できます。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [送信RIPフィルタリングテーブル] をクリックします。
- 3 送信RIPフィルタリングテーブルを設定します。

削除	RIPの宛先IPアドレスとマスク長	送信インタフェース
<input checked="" type="checkbox"/>		ISDN1

- [RIPの宛先IPアドレス]
送信ルーティング情報のフィルタリングの対象とする宛先IPアドレスを入力します。
- [マスク長]
宛先IPアドレスに対するマスク長を入力します。
- [送信インタフェース]
送信インタフェースを選択します。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ワンポイント

登録済みの送信フィルタリングテーブルを削除するときは
手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

ルート情報提供ルータの指定

有効なルーティング情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを設定します。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [ルート情報提供ルータの指定] をクリックします。
- 3 有効なルーティング情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを登録または削除します。

装置導入時は未設定です。



- [該当ルータのIPアドレス]
有効な情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを入力します。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

ブリッジングの設定 (FITElnet-E30のみ)

FITElnet-E30では、TCP/IP以外のデータをブリッジングすることができます。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [ブリッジングの設定] をクリックします。
- 3 ブリッジングを利用するかどうかを選択します。

ブリッジングの設定

- 利用しない
- 利用する

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容がFITElnet-E30に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、FITElnet-E30のリセットが必要です。(← P 37)

データリンクの設定

BACPの動作モードとデータリンクに関する項目を設定します。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [データリンクの設定] をクリックします。
- 3 BACPの動作モードとデータリンクに関する項目を設定します。

データリンクの設定

BACP:

利用しない
 利用する

BACPを利用する場合、そのプロトコルは

新版を利用する
 旧版を利用する

回線毎の設定

	フラグ同期監視	データ圧縮	圧縮方法	TCP/IPヘッダ圧縮	ダイヤルアップ回線手動接続運用時のインタフェースモード
HSD	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> 接続相手に合わせる <input type="radio"/> 接続相手に構わずする	手順: <input checked="" type="radio"/> RFCに準拠する <input type="radio"/> 独自手順を利用する プロトコルフィールド: <input type="radio"/> 含む <input checked="" type="radio"/> 含まない	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> β1セッションを対象とする	---

次ページへ続く

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

- [フラグ同期監視]
WAN回線上のフラグ同期監視モードを指定します。
- [BACP]
R-BODを実現するための手順です。ここでは、BACPを利用するかどうかを選択します。利用する場合は、新版と旧版のどちらのプロトコルを利用するか選択してください。
- [データ圧縮]
データ圧縮の方法を選択します。
 - ・しない データの圧縮動作を行いません。
 - ・接続相手に合わせる 接続相手と圧縮アルゴリズムのネゴシエーションを行います。ネゴシエーションが完了すれば圧縮データの送受信を行い、完了できなければ圧縮データの送受信は行いません。
 - ・する ネゴシエーションを行い、その結果にかかわらず圧縮データの送受信を行います。データ圧縮の方法は、接続相手と同じものを選択してください。[データ圧縮する場合]を設定してください。
- [データ圧縮する場合]
 - < データ圧縮指定 >
 - ・RFCに準拠する RFC1974準拠に従った圧縮が行われます。
 - ・独自手順を利用する RFC1974に準拠していない一部の圧縮に対応します。
 - < データ圧縮プロトコルフィールド圧縮指定 >
 - ・プロトコルフィールドを含む PPPプロトコルフィールドの圧縮を行います。
 - ・プロトコルフィールドを含まない PPPプロトコルフィールドの圧縮を行いません。
- [TCP/IPヘッダ圧縮]
TCP/IPヘッダ圧縮をするかどうか選択します。ヘッダ圧縮を行う場合は、対象とするコネクションの数を入力してください。
- [ダイヤルアップ回線手動接続運用時のインタフェースモード]
ISDNが切断されている場合に、ISDNの先の情報を有効にするかどうかを指定します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

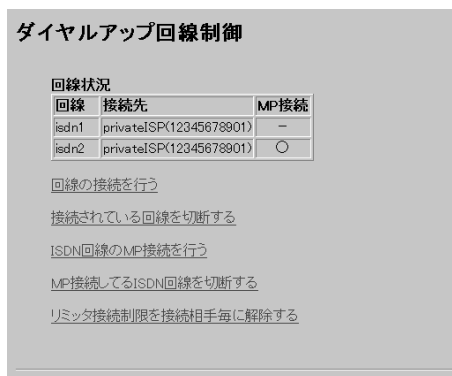
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ダイヤルアップ回線制御

回線の接続と切断などダイヤルアップ接続時に使用する機能が [ダイヤルアップ回線制御] にまとめられています。[ダイヤルアップ回線制御] 画面を表示し、メニューの中から使用する機能を選択してください。

ダイヤルアップ回線制御画面を表示する

- 1 [ダイヤルアップ回線制御] をクリックします。[ダイヤルアップ回線制御] 画面が表示されます。



FITELnet-E30ではmodem回線、dp (Dチャンネルパケット通信) の情報も表示されます。

- 2 制御したい項目をクリックします。

- 回線の接続を行う (☞P252)
- 接続されている回線を切断する (☞P254)
- ISDN回線のMP接続を行う (☞P256)
- MP接続しているISDN回線を切断する (☞P257)
- リミッタ接続制限を接続相手ごとに解除する (☞P258)

ISDN回線を接続する(connectコマンド)

ISDNの接続は、通常はLANからの送信データを受け自動的に行われます。ここでは、手動でISDNを接続する方法を説明します。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[回線の接続を行う]をクリックします。

[回線の接続を行う]画面が表示されます。

2 接続する回線や接続先を設定します。

回線の接続を行う

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

接続する回線: ISDN1 接続先: remotetarget100
無通信監視時間: 60 秒 (0は無制限、最大3600まで有効)

FITELnet-E30ではmodem回線、dp(Dチャンネルパケット通信)の制御も行うことができます。

• [接続する回線]

ISDN1チャンネルとISDN2チャンネルのうち、接続に使用する回線を選びます。

• [接続先]

接続するアクセスポイントなどのISDNリモートターゲットを選びます。

• [無通信監視時間]

通信相手とデータのやりとりがないときに、通信を切断することができます。監視する場合は、監視時間を秒単位で設定します。最大3600秒まで設定できます。無通信監視を設定しない場合は、0を設定してください。

3 [送信]をクリックします。

回線が接続されます。

<コマンド操作>

- 1 「connect」に続いて、接続したいチャンネルと接続相手の名前を入力します。接続相手の名前は、P225で設定します。

データがなくなってからISDNを切断するまでの時間(秒)を指定することができます。

(例) B1チャンネルで、tokyoに接続する。30秒間データがなかったら、ISDNを切断する。

```
#connect -1 Tokyo -i 30
```

- 2 回線を接続し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#connect -1 Tokyo  
(Tokyo)  
#
```

接続に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx)] と表示されます。

接続に失敗した場合は、P287をご覧ください。

4
使う
ルータ機能
を

お知らせ

[-i] を省略した場合は、発呼時に無通信監視時間を監視して回線を切る時間の設定に従います。

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

ISDN回線を切断する（disconnectコマンド）

ISDNの切断は、中継データがなくなったことにより自動的に行われます*。ここでは、手動でISDNを切断する方法を説明します。

*本装置は、中継データを監視し、60秒間中継データがない場合にISDNを切断します。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[接続されている回線を切断する]をクリックします。

[接続されている回線を切断する]画面が表示されます。

2 [切断する回線]の中から、切断したい回線を選びます。

接続されている回線を切断する

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

切断する回線:

FITELnet-E30ではmodem回線、dp（Dチャンネルパケット通信）の制御も行うことができます。

・ [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

・ [切断する回線]

切断する回線を選びます。

3 [送信]をクリックします。

回線が切断されます。

<コマンド操作>

1 「disconnect」と入力します。

```
#disconnect
```

2 切断したい相手を選択します。

「both」は両方のBチャンネルを切断します。接続している回線が1回線の場合は、この問い合わせはありません。
(例) Tokyo、Osakaと接続していて、両方を切断する場合

```
#disconnect  
Select line (1.Tokyo 2.Osaka 3.both) 3
```

3 回線を切断し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

切断に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx)] と表示されます。

切断に失敗した場合は、P287をご覧ください。

4
ルータ機能
を使う

お知らせ

コマンドを実行しても切断できない場合は、本装置の電源をOFFにし、ご使用のネットワーク環境をご確認ください。
回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

ISDN回線のMP接続を行う (Isplitコマンド)

トラフィックを分散するための回線接続は、ISDN回線の負荷により自動的に行われます。ここでは、手動でトラフィック分散回線を接続する方法を説明します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[ISDN回線のMP接続を行う]をクリックします。

[ISDN回線のMP接続を行う]画面が表示されます。

- 2 [送信]をクリックします。

通常回線の接続先にMP接続が行われます。



FITELnet-E30ではmodem回線、dp (Dチャンネルパケット通信)の情報も表示されます。

- [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

< コマンド操作 >

- 1 「Isplit on」と入力します。

```
#Isplit on
```

- 2 トラフィック分散回線を接続し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

接続に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx).] と表示されます。

接続に失敗した場合は、P287をご覧ください。

お知らせ

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

注意

トラフィック分散を行うと、ISDN回線を2チャンネル接続することになり、ISDNの料金は2倍かかります。

MP接続しているISDN回線を切断する（Isplitコマンド）

MP接続を手動で解除する方法について説明します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[MP接続しているISDN回線を切断する]をクリックします。

[MP接続しているISDN回線を切断する]画面が表示されます。

- 2 [送信]をクリックします。

MP接続が切断されます。

MP接続してるISDN回線を切断する

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

MP接続を解除する

FITELnet-E30ではmodem回線、dp（Dチャンネルパケット通信）の情報も表示されます。

- [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

4
ルータ機能
を使う

< コマンド操作 >

- 1 「Isplit off」と入力します。

```
#Isplit off
```

- 2 トラフィック分散回線を切断し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

切断に失敗した場合は [***Command error. (errcode=xxxx).] と表示されます。

切断に失敗した場合は、P287をご覧ください。

お知らせ

コマンドを実行しても切断できない場合は、本装置の電源をOFFし、ご使用のネットワーク環境をご確認ください。

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

リミッタを解除する (unlockコマンド)

接続相手ごとのリミッタ状況を表示します。リミッタが働いていて接続不可能になっている接続先のリミッタが解除できます。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する]をクリックします。

[リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する]画面が表示されます。

- 2 [リミッタ接続制限を解除する接続先]の中から、リミッタを解除する接続先を選びます。

リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する

接続制限状況	
接続先	状況
	連続 連続回数
Tokyo	- -
Osaka	○ -

-:リミッタ監視対象外
○:リミッタ監視中
×:リミッタ接続制限中

リミッタ接続制限を解除する接続先: Tokyo

•[接続制限状況]

接続先ごとに接続制限状況が表示されます。

接続形態	説明
-	リミッタの監視対象外の接続先です。
○	リミッタが監視中の接続先です。
×	リミッタが働いていて、接続が不可能な接続先です。

- 3 [送信]をクリックします。

リミッタが解除され、接続できるようになります。

< コマンド操作 >

- 1 すべての接続先のリミッタを解除するには、「unlock all」と入力します。

(例) すべての接続先のリミッタを解除する

```
#unlock all
```

- 2 接続先のリミッタを解除し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

targetisコマンドで表示されるlimiterStatusの項目で、接続先ごとのリミッタの状況を知ることができます。

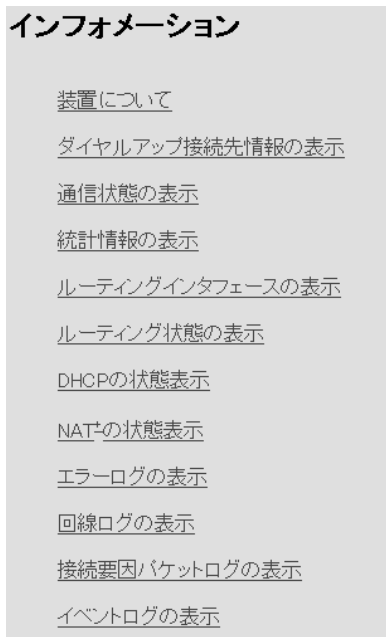
インフォメーション

通信ログなど本装置の運用やメンテナンスに必要な情報をインフォメーションで表示することができます。[インフォメーション]画面を表示し、メニューの中から使用する機能を選択してください。

インフォメーション画面を表示する

< Webブラウザ操作 >

- 1 [インフォメーション]をクリックします。
[インフォメーション]画面が表示されます。
- 2 表示したい項目をクリックします。



- 装置に付いて (☞P260)
- ダイヤルアップ接続先情報の表示 (☞P261)
- 通信状態の表示 (☞P263)
- 統計情報の表示 (☞P265)
- ルーティングインタフェースの表示 (☞P269)
- ルーティング状態の表示 (☞P271)
- DHCPの状態表示 (☞P272)
- NAT+の状態表示 (☞P274)
- エラーログの表示 (☞P275)
- 回線ログの表示 (☞P276)
- 接続要因パケットログの表示 (☞P278)
- イベントログの表示: 装置にログインされた情報を表示します。

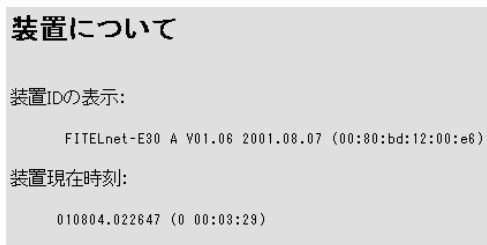
装置情報を表示する (hereis コマンド、 uptime コマンド、 date コマンド)

本装置のID、システムアップ時間、現在時刻を表示することができます。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [インフォメーション] 画面で、 [装置について] をクリックします。

[装置について] 画面が表示されます。
ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。



画面のみかた

項目	説明
装置IDの表示	装置を識別する内容として次を表示します。 装置名/装置版数/ファームウェア版数と作成日/装置のMACアドレス
装置現在時刻	現在時刻として、年月日時分秒を設定 / 表示します。

< コマンド操作 >

項目	説明
装置IDの表示	hereis
装置現在時刻	date

- 1 「 hereis 」, 「 date 」 のいずれかを入力します。
(例) 本装置のIDを表示する。

```
#hereis
```

2 本装置のIDが以下のように表示されます。

```
#hereis :  
description : FITEInet-E30 A V01.06 2001.08.07 ( 00:80:bd:12:00:e6 )  
node :  
manager :
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ダイヤルアップ接続先情報を表示する (targetisコマンド)

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[ダイヤルアップ接続先情報の表示] をクリックします。

ダイヤルアップの接続先に関する情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。同一のISDN番号に対して複数のターゲット名が登録されている場合 (トラヒック分散を用いる場合等) 、複数のターゲットに対する課金リミッタの情報は、最初に登録されたターゲットが対象となります。

ダイヤルアップ接続先情報の表示

```
<Tokyo>  
contlimiterStatus:off  
maxPeriod:8000(sec) currentPeriod:0(sec) previousPeriod:0(sec)  
calllimiterStatus:off  
maxCalling:40(times) currentCalling:0(times) previousCalling:0(times)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:  
dialcheckMask:0  
<Osaka>  
contlimiterStatus:normal  
maxPeriod:8000(sec) currentPeriod:0(sec) previousPeriod:0(sec)  
calllimiterStatus:off  
maxCalling:40(times) currentCalling:0(times) previousCalling:0(times)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:  
dialcheckMask:0
```

< 表示内容 >

- ターゲット名称
- ターゲットISDN番号とISDNサブアドレス
- 課金リミッタの状態 (off,normal,which is bombarded)
- リミッタ機能停止
- 連続接続最大時間
- 現在または最新の連続接続時間
- 接続回線速度
- 自ホスト名称
- 読み飛ばす桁数

4
使
ル
う
タ
機
能
を

< コマンド操作 >

1 「targetis」と入力します。

```
#targetis
```

2 ダイヤルアップの接続先情報が表示されます。

```
<aite>
03xxxxxxx limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:default
<aite-ls>
03yyyyyyy limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:default
<test>
06zzzzzzz limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```


通信状態を表示する (chargeコマンド、 lineisコマンド)

通信状態の表示では、ISDNを使用した課金情報と回線情報を表示することができます。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[通信状態の表示] をクリックします。

課金情報と回線情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

通信状態の表示

課金情報:

```
ISDN1 routing total charge(yen):      0
ISDN2 routing total charge(yen):      0
TEL1 charge(yen):      0 total charge(yen):      0
TEL2 charge(yen):      30 total charge(yen):      0
```

課金情報のみかた

上記の例では、B1チャンネルでのルーティング (ISDN1 routing total charge (yen)) に0円、B2チャンネルでのルーティング (ISDN2 routing total charge (yen)) に0円かかっていることがわかります。

TEL1 charge (yen) は、最新のTEL1ポートの課金情報を、total charge (yen) は、TEL1ポートの課金情報を表示します。TEL2 charge (yen) は、最新のTEL2ポートの課金情報を、total charge (yen) は、TEL2ポートの課金情報を表示します。

回線情報:

```
<LAN>
interface:ISDN802-3
<HSD>
speed: 0 (kba)
operationStatus:clear layer1Status:other
<I>
0469251672*1234567
operationStatus:clear layer1Status:up connectStatus:notconnected
Usage:normal
Target:Test(#1234)
maxRetryCalling:10(idle) idleStatusTimer:60(sec) congestionTimer:1(sec)
continuousConnectionCurrentTime:0(minutes)
```

回線情報のみかた

接続形態	説明
LAN回線	<ul style="list-style-type: none"> 回線インタフェース名 (interface)
HSD	<ul style="list-style-type: none"> 回線速度 (speed) 回線使用状態 (operationStatus) HSD回線の状態 (layer1Status)
ISDN	<ul style="list-style-type: none"> 回線使用状態 (operationStatus) ISDN回線の状態 (layer1Status) チャンネルの状態 (connectStatus) 回線運用状態 (Usage) 接続相手 (target) 発呼最大リトライ回数 (maxRetryCalling) 無通信監視タイマ (idleStatusTimer) 輻輳監視タイマ (congestionTimer) 連続接続時間 (continuousConnectionCurrentTime) フレックスホン契約状況

< コマンド操作 >

- 1 課金情報を表示するには「charge」、回線情報を表示するには「lineis」と入力します。

(例) 課金情報を表示する。

```
#charge
```

- 2 本装置の持つ課金情報が、以下のように表示されます。

```
ISDN1 routing total charge (yen) :      0
ISDN2 routing total charge (yen) :      0
TEL1 charge (yen) :      0 total charge (yen) :      0
TEL2 charge (yen) :      30 total charge (yen) :      0
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

統計情報を表示する (stchannelコマンド、 stipコマンド)

統計情報の表示では、回線統計情報とルーティング統計情報を表示することができます。
回線統計情報として、現在、ルーティングで使用しているチャンネルの統計を表示します。
IPルーティングの統計情報では次の項目を表示します。

- IPパケット統計情報
- ICMPパケット統計情報
- UDPパケット統計情報
- TCPパケット統計情報
- RIPパケット統計情報

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[統計情報の表示] をクリックします。

回線統計情報とルーティング統計情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

```

統計情報の表示

回線統計情報:

<lan>
alignment error frames:      0
FCS error frames           :  0
collision count             :  6
</lan>
<hsl>
congestion count:           0
HSD error count            :  0
</hsl>
<1>
congestion count:           0
load split count:           0 load split error count:  0
total time(sec)           :  0 total charge(yen):  0
call setup count:         0 call error count:  0
call busy count           :  0
</1>
<2>
congestion count:           0
total time(sec)           :  0 total charge(yen):  0
call setup count:         0 call error count:  0
call busy count           :  0

ルーティング統計情報:

<IP>
in packet                   : 10846 in discard packet : 4506
in header error packet     : 0 in address error packet: 0
out request packet         : 880 out discard packet : 0
forward packet             : 0 no route packet : 0
</IP>
in message packet          : 19 in error packet : 0
out message packet        : 3 out error packet : 0
</UDP>
in datagram packet        : 8188 in error packet : 887
no port packet           : 0 out datagram packet: 764
</TCP>
in segment packet         : 235 out segment packet: 163
in error packet           : 0 passive open count: 4
</RIP>
in packet                  : 5189 sent packet : 756
out request packet         : 1 in reply packet : 5178
flash update packet       : 0 send error packet: 0
bad receive packet        : 0
    
```

LAN

項目	意味
alignment error frames	フレーム長がオクテット整数でなく、FCSチェックにもエラーした受信フレームの総数
FCS error frames	フレーム長はオクテット整数だがFCSエラーで廃棄された受信フレーム総数
collision count	コリジョン発生回数

HSD

項目	意味
congestion count	輻輳発生回数
HSD error count	通常回線障害発生回数

4
使う
ルータ機能
を

ISDN

項目	意味
congestion count	輻輳発生回数
load split count	トラヒック分散回線の接続回数
load split error	トラヒック分散回線の障害発生回数
total time	ISDNの接続時間の合計（秒）
total charge	ISDNの使用料金の合計（円）
call setup count	ISDNを接続した回数
call error count	ISDNを接続した際エラーで解放された回数
call busy count	ISDNを接続した際相手ビジーで解放された回数

ルーティング統計情報のみかた

IP

項目	意味
in packet	総入力IPパケット数
in discard packet	廃棄された入力パケット数
in header errors packet	IPヘッダエラー受信パケット数
in address error packet	IPアドレスエラー受信パケット数
out request packet	送信要求パケット数
out discard packet	内部資源不足のため廃棄された送信要求パケット数
forward packet	フォワーディングの必要のある受信パケット数
no route packet	送信経路がないため廃棄された送信要求パケット数

ICMP

項目	意味
in message packet	受信ICMPパケット数（エラー含む）
in error packet	受信ICMPエラーパケット数
out message packet	送信ICMPパケット数（エラー含む）
out error packet	送信ICMPエラーパケット数

UDP

項目	意味
in datagram packet	受信UDPデータグラム数
in error packet	受信エラーUDPデータグラム数（チェックサムエラー等）
no port packet	受信エラーUDPデータグラム数（不正宛先ポート）
out datagram packet	送信UDPデータグラム数

TCP

項目	意味
in segment packet	受信TCPセグメント数
out segment packet	送信TCPセグメント数
in error packet	受信エラーTCPセグメント数（チェックサムエラー等）
passive open count	受動オープンした回数

RIP

項目	意味
in packet	受信RIPパケット数
sent packet	送信RIPパケット数
out request packet	送信RIP要求パケット数
in reply packet	受信RIPリプライパケット数
flash update packet	「triggered update」した回数
send error packet	送信エラーパケット数
bad receive packet	受信エラーパケット数

<コマンド操作>

- 1 回線の統計情報を表示するには「stchannel」、ルーティングの統計情報を表示するには「stip」と入力します。

(例) 回線の統計情報を表示する。

```
#stchannel
```

- 2 回線の統計情報が以下のように表示されます。

```
<lan>
alignment error frames:      0
FCS error frames   :      0
collision count    :      6
<hsd>
congestion count:      0
HSD error count :      0
<1>
congestion count:      0
load split count:      0 load split error count:      0
total time (sec) :      0 total charge (yen) :      0
call setup count:      0 call error count :      0
call busy count :      0
<2>
congestion count:      0
total time (sec) :      0 total charge (yen) :      0
call setup count:      0 call error count :      0
call busy count :      0a
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ルーティングインタフェースを表示する (ipinterface コマンド)

IPインタフェースの情報として次の内容をインタフェースごとに表示します。ただし、ダウンしているインタフェースに対しては表示を行いません。

- インタフェースのステータス
- インタフェースタイプ
- インタフェースアドレス
- インタフェースのIPアドレスサブネットマスク
- ブロードキャストアドレス
- リモートアドレス
- リモートサブネットマスク

NAT⁺を利用しているとき、ISDN回線のインタフェースアドレスが「0.0.0.0」と表示される場合があります。これは一度も接続が行われていないことを表します。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[ルーティングインタフェースの表示] をクリックします。

ルーティングインタフェースに関する情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

ルーティングインタフェースの表示

```
<LAN>
up broadcast
address:192.52.128.122 subnet:255.255.255.0 broadcast:192.52.128.255
<HSD>
down broadcast
<ISDN1>
up pointToPoint
address:192.52.128.122 remote:192.168.168.102 remotesubnet:255.255.255.255
<ISDN2>
down broadcast
```

FITELnet-E30ではmodem回線、dp (Dチャンネルパケット通信) の情報も表示されます。

4
使う
ルー
タ機
能を

<コマンド操作>

1 「ipinterface」と入力します。

```
#ipinterface
```

2 ルーティングインタフェースが以下のように表示されます。

```
<LAN>
up broadcast
address:192.168.1.1 subnet:255.255.255.0
broadcast:192.168.1.255
<HSD>
down broadcast
<ISDN1>
up pointToPoint
address:192.168.1.1 remote:192.168.168.102
remotesubnet:255.255.255.255
<ISDN2>
down broadcast
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```


ルーティング状態を表示する (iprouteコマンド)

IPルーティングテーブルとして次の内容を表示します。

- ルーティング情報を得た手段
- 宛先IPアドレスIPアドレスマスク
- 宛先に到達するために送信するゲートウェイのIPアドレス
- 経由するインタフェース経路タイプ

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[ルーティング状態の表示]をクリックします。

ルーティング状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

ルーティング状態の表示

```
rip 0.0.0.0 0.0.0.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 1.0.0.0 255.0.0.0 192.52.128.1 lan indirect
other 127.0.0.1 255.255.255.255 127.0.0.1 lan direct
rip 158.202.0.0 255.255.0.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 192.52.121.0 255.255.255.0 192.52.128.1 lan indirect
other 192.52.128.0 255.255.255.0 192.52.128.122 lan direct
rip 192.52.144.0 255.255.255.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 192.168.29.0 255.255.255.0 192.52.128.22 lan indirect
rip 192.168.30.0 255.255.255.0 192.52.128.22 lan indirect
rip 192.168.32.0 255.255.255.0 192.52.128.210 lan indirect
rip 192.168.55.1 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.55.1 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.128.45 255.255.255.255 192.52.128.9 lan indirect
rip 192.168.128.0 255.255.255.0 192.52.128.200 lan indirect
rip 192.168.128.200 255.255.255.255 192.52.128.200 lan indirect
rip 192.168.131.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.131.81 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
local 192.168.168.0 255.255.255.0 aite isdn1 indirect
other 192.168.168.102 255.255.255.255 192.52.128.122 isdn1 direct
local 192.168.168.103 255.255.255.255 aite isdn1 indirect
rip 192.168.202.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.209.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.234.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.234.59 255.255.255.255 192.52.128.9 lan indirect
```

ルーティング状態のみかた

画面例では、以下の情報がわかります。

- 192.168.254.0ネットワークへは、LAN側の192.168.128.1ゲートウェイを通過して通信を行うことができる。
- この情報はRIPにより受信した。

項目		意味
ルーティング情報を得た手段	local	スタティック登録
	rip	RIPで学習
	other	localとrip以外
宛先IPアドレスIPアドレスマスク		—
宛先に到達するために送信するゲートウェイのIPアドレス		—
経由するインタフェース経路タイプ	direct	直接ルート等の自装置内の経路
経由するインタフェース経路タイプ	indirect	自装置以外の経路

次ページへ続く

< コマンド操作 >

1 「iproute」と入力します。

```
#iproute
```

2 ルーティング状態が以下のように表示されます。

```
rip 192.168.254.0 255.255.255.0 192.168.128.1 lan indirect
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

DHCPの状態を表示する (dhcpstatコマンド)

DHCPサーバ機能がARPにより認識した (すでに利用済みの) IPアドレス、IP端末からのIPアドレス取得要求に対してDHCPサーバ機能が自動配付したIPアドレス、設定 (hosttableコマンド) により割り付けが決められているIPアドレスを表示します。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[DHCPの状態表示] をクリックします。

DHCPの状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

DHCPの状態表示

```
a 08:00:20:0f:83:54 192.52.128.1
a 00:80:bd:f0:06:f4 192.52.128.8
a 00:80:bd:f0:06:6b 192.52.128.9
a 08:00:20:7b:4d:3a 192.52.128.13
a 00:80:bd:f0:04:3a 192.52.128.22
a 00:80:bd:f0:06:77 192.52.128.97
a 00:80:bd:f0:01:33 192.52.128.200
```

DHCPの状態表示のみかた

表示はIP端末とのペアで表示し、IP端末はIPアドレスで表わします。「割り付けが決められているIPアドレス (S)」に関しては、前もって設定により決められた内容となりますので実際に使用されているかどうかの判断にはなりません。

内部的に「割り付けが決められているIPアドレス (S)」が「ARPにより認識した (既に利用済みの) IPアドレス (a)」とぶつかった場合は、現況優先により「ARPにより認識した (既に利用済みの) IPアドレス (a)」の内容を表示します。

これにより「割り付けが決められているIPアドレス (S)」があるにも関わらず、表示されない場合は、既にそのIPアドレスは使用されていると判断できます。

<コマンド操作>

1 「dhcpstat」と入力します。

```
# dhcpstat
```

2 DHCPの状態が以下のように表示されます。

```
a 08:00:20:0f:83:54 192.168.128.1
a 00:80:bd:f0:06:f4 192.168.128.8
a 00:80:bd:f0:06:6b 192.168.128.9
a 08:00:20:7b:4d:3a 192.168.128.13
a 00:80:bd:f0:04:9a 192.168.128.22
a 00:80:bd:f0:05:77 192.168.128.97
a 00:80:bd:f0:01:33 192.168.128.200
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う

NAT⁺の状態を表示する (natinfoコマンド)

アドレス変換状況を取得して、NAT⁺の状態を表示します。

- LAN側の送信元IPアドレスとWAN側の変換後IPアドレスの組
- LAN側の送信元IPアドレスとWAN側の変換後IPアドレスの組に対応する宛先IPアドレス
- LAN側の送信元ポートとWAN側の変換後ポートの組
- LAN側の送信元ポートとWAN側の変換後ポートの組に対応する宛先ポートを表示します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [インフォメーション]画面で、[NAT⁺の状態表示]をクリックします。

NAT⁺の状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

NAT⁺の状態表示

```
10.10.10.10(210.170.178.31)->202.216.224.66 32768(32768)->53
10.10.10.10(210.170.178.31)->210.155.3.205 2049(2049)->23
210.170.178.31(210.170.178.31)->210.155.3.205 12094(12094)->12094
```

表示フォーマット

- LAN側送信元IPアドレス (WAN側変換後IPアドレス) 宛先IPアドレス
- LAN側送信元ポート (WAN側変換後ポート) 宛先ポート

< コマンド操作 >

- 1 「natinfo」と入力します。

```
# natinfo
```

- 2 NAT⁺の状態が以下のように表示されます。

```
10.10.10.10 (210.170.178.31)->202.216.224.66 32768 (32768)->53
10.10.10.10 (210.170.178.31)->210.155.3.205 2049 (2049)->23
210.170.178.31 (210.170.178.31)->210.155.3.205 12094 (12094)->12094
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

エラーログを表示する (elogコマンド)

エラーに関するロギングとして次の項目を表示します。

- 通し番号
- ログID
- ロギング時刻
- エラーコード
- タスクID
- ログメッセージ

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[エラーログ表示]をクリックします。

エラーログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

エラーログの表示

```
seq uptime      date                tid  logid  ecode
-----
968 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-082598]
969 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:33:33  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-082598]
970 0002:12:15.44 98/05/20 (wed) 16:45:48 10 0a003016 00000009
telnet login fail from 192.52.128.1
971 0002:13:01.27 98/05/20 (wed) 16:46:34 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
972 0002:27:56.10 98/05/20 (wed) 17:01:29 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
973 0005:50:33.92 98/05/20 (wed) 20:24:06 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
974 0006:21:05.19 98/05/20 (wed) 20:54:38 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
975 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 20:55:43  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-082598]
976 0000:00:08.54 98/05/20 (wed) 20:56:51 10 0a003015 00000000
```

< コマンド操作 >

1 「elog」と入力します。

```
# elog
```

2 エラーログが以下のように表示されます。

```
seq uptime      date                tid  logid  ecode
-----
968 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-062598]
969 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:33:33  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-062598]
970 0002:12:15.44 98/05/20 (wed) 16:45:48 10 0a003016 00000009
telnet login fail from 192.52.128.1
971 0002:13:01.27 98/05/20 (wed) 16:46:34 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
972 0002:27:56.10 98/05/20 (wed) 17:01:29 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
973 0005:50:33.92 98/05/20 (wed) 20:24:06 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
974 0006:21:05.19 98/05/20 (wed) 20:54:38 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

回線ログを表示する (llogコマンド)

回線に関するロギングとして次の項目を表示します。

- 通し番号
- ロギング時刻
- 回線種別
- エラーコード
- ログメッセージ

切断時や接続が失敗した時などは網からその原因が通知されます。その内容は切断時のログ (ログメッセージが「Disconnected」) や接続失敗時のログ (ログメッセージが「Connect fail」) の「エラーコード」に16進値で記録されています。PPPでの認証失敗時やデータリンクレベルでの接続失敗時の原因も記録されます。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[回線ログ表示]をクリックします。

回線ログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

回線ログの表示

LAN:

```
seq uptime      date                channel  ecode
-----
061 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
062 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 14:33:38 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
063 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 20:55:43 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
064 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 20:57:28 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
```

回線ログのみかた

項目名	意味
seq	シーケンス番号
uptime	操作が起動してからの時間 (時間・分・秒)
channel	選択した回線
ecode	回線の状況

<コマンド操作>

1 「llog」を入力します。

LAN、WAN回線個別の状況を確認する場合は、「llog」のあとに以下のオプションをつけてください。

回線種別	オプション	説明
LAN	-l	
高速デジタル専用線	-h	
ISDN#1	-1	ISDNのB1チャンネル側
ISDN#2	-2	ISDNのB2チャンネル側

(例) LANの状況を確認する。

```
#llog -l
```

2 表示された内容により、LAN、WAN回線の状況を確認します。

```
#llog -l
seq uptime          channel  ecode
-----
000 0000:00:00.00 LAN      00000000
                                     #P_ON[V00.00-012097]
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う

お知らせ

ラインログの最大ログ件数は回線ごとに20件です。20件以上のログは、最も古いログから上書きしていきます。

接続要因パケットログを表示する (alogコマンド)

ISDN回線を接続する原因となったデータのログを表示します。次の3種類のログを採取しています。

- 発呼した時間と回線
- 発呼した相手の電話番号
- 発呼の原因となったデータ (パケット) の内容

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[接続要因パケットログの表示]をクリックします。

接続要因パケットログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

接続要因パケットログの表示

```
0: 1998/01/01 (thu) 00:00:00 (00000000:00000000 0x00303554(0))
#Reset [V24.30-062598]

1: 1998/01/01 (thu) 02:58:52 (00106031:00000000 0x003c8c70(104))
ISDN#1 Calling 0463251374.
00 3c 8c 70 00 3c 8c 70 00 3e c2 00 20 00 00 00 .<Ip.<Ip.>...
00 04 80 00 00 10 80 31 00 00 00 00 00 04 00 04 .....!.....
80 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 00 af 00 00 .....TE..T...
fd 01 12 ce c0 34 80 e8 c0 a8 a3 65 08 00 4e 50 .....4.....f..NP
df 55 00 00 01 df 55 00 00 00 08 09 0a 0b .....U.....
0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b .....!*#
1c 1d 1e 1f 20 21 22 23

2: 1998/01/01 (thu) 18:29:11 (00658c85:00000000 0x003c8548(104))
ISDN#1 Calling 0463251374.
00 3c 85 48 00 3c 85 48 00 3e f5 00 20 00 00 00 .<H.<H.>...
00 04 80 00 00 65 8c 84 00 00 00 00 00 04 00 04 .....e.....
80 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 04 88 00 00 .....TE..T...
fd 01 0f ba c0 34 80 6f c0 a8 a8 19 00 00 cd 01 .....4.o.....
01 ac 00 36 35 e2 43 0f 00 05 cd 22 08 09 0a 0b ...65.C.....
0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b .....!*#
1c 1d 1e 1f 20 21 22 23
```

回線ログのみかた

項目名	説明
*1	発呼した時刻
*2	発呼した回線と電話番号
*3	プロトコル識別
*4	発呼したパケットの内容の一部(PPPのヘッダーを除いた先頭から64バイト分)

<コマンド操作>

1 「alog」と入力します。

```
#alog
```

2 ログが以下のように表示されます。

```
0: 1998/01/01 (thu) 00:00:00 (00000000:00000000 0x00303554 (0))
  #Reset [V24.30-062598]

1: 1998/01/01 (thu) 02:58:52 (00106031:00000000 0x003c6c70 (104))
  ISDN#1 Calling 0463251374.
  00 3c 6c 70 00 3c 6c 70 00 3e c2 00 20 00 00 00  .<lp.<lp.>.. ...
  00 04 80 00 00 10 60 31 00 00 00 00 00 04 00 04  .....`1.....
  80 00 00 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 00 af 00 00  .....TE..T...
  fd 01 12 ce c0 34 80 e8 c0 a8 a8 66 08 00 4e 50  ....4....f.NP
  df 55 00 00 00 01 df 55 00 00 00 00 08 09 0a 0b  .U....U.....
  0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b  .....
  1c 1d 1e 1f 20 21 22 23  ....!#
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う